

平成28年度  
敦賀市教育委員会の自己点検・評価報告書

敦 賀 市 教 育 委 員 会

— 目 次 —

はじめに	1
敦賀市教育大綱（概要版）	2
総合計画数値目標との比較	3
＜各課（まとめ）＞	
教育政策課	4
○給食センター	6
生涯学習課	20
○図書館	24
○プラザ萬象	27
○少年愛護センター	29
○少年自然の家	31
文化振興課	41
○市民文化センター	43
○博物館	44
○みなとつるが山車会館	45
スポーツ振興課	52
○総合運動公園	53
国体推進課	62
外部の知見	
○東洋大学経済学部 井上武史	64
○福井県立大学学術教養センター 黒田祐二	71
(巻末)	
敦賀市教育委員会事務の自己点検・評価（マニュアル）	76

## はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成 20 年度から教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、自己点検・評価を実施するよう規定され、本市教育委員会においても、事務局の各部署の事務について実施しております。

このたび平成 28 年度分の自己点検・評価の報告書を作成いたしました。評価方法は、各部署において執行している事務について、予算の項目ごとに評価しました。従って、報告の形式は、各部署の管理し執行する事務、中でも注視すべき事務を評価項目に加え「事業名」とし、管理執行した事務は「取組み状況と成果」に記載し、これに基づき「成果の分析と評価」をいたしました。

評価は、「有効性」、「効果性」、「効率性」をそれぞれ、アルファベットの A「前進」、B「維持」、C「後退」の三段階で表わしました。

「今後の方向」は①継続、②完了、③拡大、④縮小、⑤転換、⑥中止の 6 項目で表しました。

「分類」は、教育委員会が執行する事務がどのように法令等に基づいているかを分類したものです。

自己点検・評価に際しては、外部の知見を活用するため、事業ごとに評価調書を作成のうえ、行政の事務事業評価に見識をお持ちの東洋大学経済学部 井上武史先生、学校評価に見識をお持ちの福井県立大学学術教養センター 黒田祐二先生のお二人にご意見をいただきました。

また、第 6 次総合計画 後期基本計画の数値目標については、その達成状況と分析に努め、人事・組織の見直し、予算の計上・削減、事務の改善・廃止等に活かしていきたいと考えております。



# 敦賀市教育大綱（概要版）

—教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策—

**教育目標** ふるさと敦賀を愛し、知性に富み、心豊かで、健康な人の育成

## 基本理念

「白砂青松」の地である敦賀を愛し、郷土の発展に貢献する活力ある人材を育成するため、家庭・学校・地域が一体となって、先人が築き上げた伝統を受け継ぎ、「人道の港」敦賀ならではの魅力ある教育を推進する。

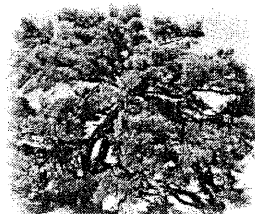


ふるさと敦賀の花「はぎ」

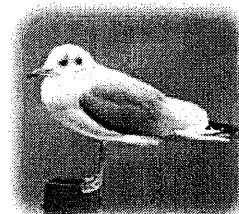
## 基本方針

### (1) 学校教育の充実

- 施策 ① 学びの芽生えを育む幼児教育の推進
- 施策 ② 自ら考え、行動する力を身に付ける教育の推進
- 施策 ③ 社会のグローバル化に対応できる外国語教育の推進
- 施策 ④ 個々のニーズに合わせた特別支援教育の推進
- 施策 ⑤ 健やかな体の育成を目指した健康・安全教育の推進
- 施策 ⑥ いじめや不登校を予防し、防止する生徒指導体制の推進
- 施策 ⑦ 児童・生徒数や社会の変化に対応した学校の整備
- 施策 ⑧ 社会の変化に応じた教育活動を行うための教職員の資質及び指導力の向上



ふるさと敦賀の木「まつ」



ふるさと敦賀の鳥「ユリカモメ」

### (2) 社会教育の充実と活性化

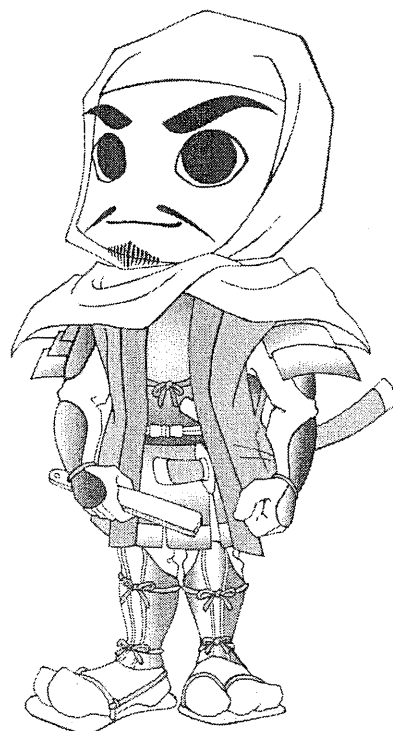
- 施策 ⑨ 活力ある地域社会の形成
- 施策 ⑩ 社会的な課題に対応する生涯学習の推進
- 施策 ⑪ 社会教育施設の整備・充実
- 施策 ⑫ 地域等と連携した青少年の健全育成

### (3) 文化の振興・支援

- 施策 ⑬ 文化意識の向上
- 施策 ⑭ 市民文化の活動拠点の整備・充実
- 施策 ⑮ 文化財の保護・支援
- 施策 ⑯ 文化財の活用の推進

### (4) スポーツの振興及び推進

- 施策 ⑰ 国体開催を契機としたスポーツの振興
- 施策 ⑱ 生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興
- 施策 ⑲ 人のつながりを再生するスポーツ交流の推進
- 施策 ⑳ スポーツ施設の整備



敦賀市公認キャラクター「よっしー」

第6次総合計画 後期基本計画の数値目標との比較

第5章 心豊かな人を育むまちづくり

基 本 計 画		実 施 計 画			
名 称	基本的な方向性	名 称	成 果 指 標		
			内 容	28年度末数値	目標年度(32)
第1節 人材育成の充実	(1)幼稚園教育の充実	公立幼稚園改善計画	幼稚園児数	96人	120人
	(2)義務教育の充実	小中学校施設充実化計画	快適かつ安心安全な学習環境の実現	-	実現
		敦賀市「知・徳・体」充実計画	角鹿中学校を中心とする小中一貫校の設立	-	事業着手
		次世代学校給食あり方検討計画	学校給食センターのあり方に関する方針	-	事業着手
(4)青少年の健全育成	青少年健全育成計画	愛の一声運動の人数	975人	1,400人	
第2節 社会教育の活性化	(1)多機能性を活かした地域づくり拠点の形成	生涯学習推進計画	公民館活動への参加者数	59,132人	70,000人
		生涯学習施設維持管理計画	生涯学習施設の利用者数	124,367人	130,000人
	(2)集客性を活かしたまちづくりの拠点の形成	図書館利用促進計画	図書館利用者数	193,562人	230,000人
	(3)文化・芸術の振興と文化財等の保護及び活用	文化活動推進計画	文化行事参加者数	29,463人	33,800人
		文化財整備活用計画	指定・登録文化財数	207件	209件
		博物館郷土文化力向上計画	見学者アンケートの満足度(%)	87.0	90.0
		文化活動拠点維持管理計画	山車会館利用者数	11,595人	19,300人
第3節 スポーツの振興	(1)福井しあわせ元気国体における敦賀市開催方針の実現	福井しあわせ元気国体推進計画	国体の開催	-	実現
	(2)福井しあわせ元気国体後のフォローアップの展開	競技レベル向上推進計画	各事業の参加者数	2,421人	4,200人
		コミュニティスポーツ推進計画	各事業の参加者数	4,309人	5,500人
	(3)健康づくりとしてのスポーツの振興	生涯スポーツ推進計画	各事業の参加者数	7,310人	7,750人
	(4)スポーツ施設の整備	スポーツ施設維持管理計画	地区体育館等のスポーツ施設の総利用者数	394,421人	440,000人

#### 教育委員会の運営について

教育委員会は毎月開催し、議案の審議や各事業の方針を決定しています。

報告事項審議手順の簡素化により、各部署における懸案事案についての審議時間を設けることで、問題解決への時間短縮を図ることができ、委員会での審議内容を充実したものにできました。

#### 教育委員会事務局職員の人事について

教育委員会事務局には、学校勤務の調理員・用務員等また臨時・パートを含めて300名の職員が勤務しています。欠員が生じた場合には迅速かつ適切に対応して、業務に支障がないように努めました。また、特別休暇等の各種届出書を遅滞なく提出してもらうことにより、円滑な事務運営を図りました。

#### 敦賀市「知・徳・体」充実プランについて

敦賀市では平成28年3月に教育大綱を決定し、教育委員会では同年9月に敦賀市教育振興基本計画を策定しました。平成32年度までの5年間を通して、子どもたちに「勉強して考える力」「内面を豊かにする力」「たくましく生きる力」が身に付くよう敦賀市「知・徳・体」充実プランとして具体的な取組を示しました。

学びのつながりを大切にした教育を進めるため、幼児教育と小学校教育の連携、中学校区ごとに小・小での合同授業・交流等、小・中連携・接続等を行いました。

小学校入学から中学校卒業まで切れ目のない教育を目指して一環教育を実施するため、福井大学教育学部附属学園と小中一貫教育のカリキュラムの研究を行いました。小中学校の先生が互いの校種の学習内容を理解し合って授業をすすめることで、つまずきやすいところや弱点克服のための指導のポイントを整理することができました。

### 角鹿中学校区統合検討委員会について

角鹿中学校及び敦賀北・赤崎・咸新小学校を統合した小中一貫校の設置の検討を行う委員会を開催しました。

これまでの検討内容を踏まえ、施設形態・建設地・施設内容・建設費・メリット・デメリットの整理等、小中一貫校の設置に向けて具体的に検討を行うことができました。

委員会からは、小中一貫校の施設形態は一体型とすること、建設地は最も敷地面積の広く、それぞれの小学校の進学先となる角鹿中学校の敷地に建設すること、小中における施設機能の集約化により合理的な施設にすること、平成33年度に開校を目指すこと等の答申をいただきました。

これを受けて、教育委員会では、老朽化する学校施設への対応や児童生徒のより良い学習環境の向上を実現するため、角鹿中学校区に小中一貫校を設置することを決定いたしました。

### 学校施設の整備、管理運営及び備品等の購入について

学校施設の整備や管理運営、備品等の購入につきましては、限られた予算を有効かつ平等に執行する必要があります。そのため、各学校に予算を配分し、その範囲内で物品購入や修繕を実施し、また配分で対応できないものに関しては、各学校との綿密な連携により学校全体の優先順位をつけて実施する方法をとっています。

今後も、学校の要求に合わせられるよう努めます。

上記以外にも、問題を抱える児童生徒が増加傾向にあるため、スクールソーシャルワーカーを配置し、学校や家庭、地域および関係機関等へ働きかけを行うなどさまざまな事業に取り組み、生きる力の育成や意欲の高揚、開かれた学校づくりの推進、家庭や地域との連携充実について、一定の成果を見ることができました。

今後も審議等を継続するにあたり、児童生徒の安心安全な教育環境の確保に万全を期してまいります。

## 学校給食センター事務の自己点検・評価について（まとめ）

学校給食において、創意と工夫により安全で安心な給食の供給と豊かで魅力ある学校給食の実現を図ると共に、児童生徒の心身の健全な発達を図るため、給食業務を推進しました。

### 調理業務について（数値は28年度実績）

- ① 業務形態 平成16年度より民間に委託
- ② 供給校 市内小中学校 11校1園  
(小学校7校、中学校4校、幼稚園1園)
- ③ 延べ食数 完全給食校 582, 158食  
米飯校 188, 574食
- ④ 自己点検 業務遅滞や食中毒発生等による学校行事への影響はなく、当初の目的どおり実施出来ました。

### 配送業務について

- ① 業務形態 平成15年度より民間に委託
- ② 配送車両 3トン車：3台、1.5トン車：1台
- ③ 配送先 上記供給校のとおり
- ④ 自己点検 調理業務との連携のもと、専用車の故障や交通事故もなく配送時間内の業務が実施出来ました。

### センター管理運営費について

- ① 施設修繕 昭和59年度建設以来年数が経過しており、経年劣化による故障は随時起こっていますが、調理に直接関係する設備は計画的に修繕や部品取替等を実施しました。近年、突発的修繕が多くなっています。
- ② 保守点検 専門業者に専門的器具の保守点検業務を委託し業務に支障ないよう対応しています。また、日頃より器具点検を行い初期対応に努めています。
- ③ 自己点検 設備の故障は即業務に反映するため、常時管理体制の強化に努め、合理的且つ効率的な運営が出来ました。今後とも施設修繕を計画的に進めていきます。

### 食材料購入について

- ① 食材料 学校栄養教職員が作成した献立に基づき食材料を選定しています。
- ② 検収 学校栄養教職員が検収し納品された数量や品質の確認を実施しています。



- ③ 自己点検 食材選定においては産地、加工地、成分分析等の確認を徹底し品質管理に万全を期し、安全・安心な給食の供給に努めています。
- 積極的に地産地消に取り組み、調査月間である6月・11月の月間県内産食材使用率（重量ベース）で40%以上が目標でありましたところ、当センターの県内産食材使用率は年間平均約31.2%、市内産食材使用率（重量ベース）で15%以上が目標でありましたところ、当センターの市内産食材使用率は約10.9%の使用率でした。
- また、毎年何件か発生しているインフルエンザに伴う学級閉鎖による食数変更が何件かありましたが、食材料への対応も問題なく給食の供給が出来ました。

### 学校給食あり方検討について

#### ① 敦賀市学校給食あり方検討委員会実施（3回）

実施日 第1回：平成28年10月26日（水）  
第2回：平成28年12月20日（火）  
第3回：平成29年3月17日（金）

委員 学識経験者、区長連合会会長、PTA連合会会長  
PTA連合会子育て委員長、敦賀合同青果㈱代表  
給食担当校長、給食主任、栄養教諭、調理員 計10名

目的 学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達並びに食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものです。今後、児童及び生徒に必要な栄養価が確保され、安全・安心で魅力ある給食を提供し、さらに学校給食のより一層の充実を図っていくために、平成28年2月に実施した学校給食費に関するアンケート結果を踏まえ、学校給食費の単価改定等に関すること及び当センターの今後の方向性等について検討するための「敦賀市学校給食あり方検討委員会」を設置しました。

諮問内容 ・学校給食費の改定の可否とその理由  
・学校給食費を改定する場合の時期と額  
・消費税率が10%になった場合の対応  
・学校給食費を改定する場合の保護者等への周知方法、周知時期及び周知期間  
・学校給食費の公会計化

- ・学校給食センターの今後の方向性
- ・その他給食に関し必要な事項

② 自己点検

委員においては、学校給食に関わりの深い担当教職員・栄養教諭・調理員や、学識経験者として栄養学専門の名誉教授、保護者代表のPTA連合会会長・子育て委員長、市民代表の区長連合会会長等を選定し、児童生徒に必要な栄養価が確保され、安全・安心で魅力ある給食を提供しさらに学校給食のより一層の充実を図っていくために、平成28年度は3回検討委員会を開催し、様々な視点から十分に検討していただくことが出来ました。

今後は、平成29年度に答申を提出していただくため、引き続き検討委員会を開催していくこととなります。

## 教育政策課

### 【教育政策課の事務分掌】

- (1) 教育委員会の会議に関する事
- (2) 公印の保管に関する事
- (3) 事務局、学校その他教育機関の職員(県費負担教職員を除く。)の人事に関する事
- (4) 職員の身分・服務及び給与の負担行為に関する事
- (5) 学校の設置・管理及び改廃に関する事
- (6) 学校教育の用に供する財産の管理に関する事
- (7) 学校の施設及び設備(備品を含む。)の整備に関する事
- (8) 教育委員会の所轄に属する財産(教育財産を除く。)の管理に関する事
- (9) 教育目的のための基本財産及び積立金の管理に関する事
- (10) 教育委員会規則の制定又は改廃に関する事
- (11) 教育財政に係る調査及び統計に関する事
- (12) 事務局内の取締り及び庁内管理に関する事
- (13) 文書の收受、浄書・発送及び保管に関する事
- (14) 市長・市議会及び市の各課(室)との連絡に関する事
- (15) 県教育委員会その他の教育委員会及び事務局各課(室)との連絡調整に関する事
- (16) 職員の研修及び福利・厚生に関する事
- (17) 教育行政に関する相談に関する事
- (18) 学校職員その他の人事に関する事
- (19) 児童・生徒の就学及び転・入学に関する事
- (20) 通学区域及び学級編成に関する事
- (21) 校長及び教員の研修に関する事
- (22) 教科内容及びその取扱いに関する事
- (23) 教科用図書採択に関する事
- (24) 学習効果の評価に関する事
- (25) 学校教育に係る調査及び統計に関する事
- (26) 学校の教員及び児童・生徒の保健衛生に関する事
- (27) 児童・生徒の福利・厚生に関する事
- (28) 学校給食に関する事
- (29) 学校給食センターに関する事
- (30) 学校教育施設の利用及び貸与に関する事
- (31) 育英奨学資金に関する事
- (32) 幼稚園に関する事
- (33) その他学校教育に関する事
- (34) 前各号のほか他課に属しない事項  
(敦賀市ハートフル・スクール及び教育研究室)
- (1) 不登校の児童及び生徒の適応指導に関する事
- (2) 不登校の児童及び生徒のカウンセリングに関する事
- (3) 訪問指導に関する事
- (4) 教育相談に関する事
- (5) 教材開発及び教育機器の活用に関する事
- (6) 各教科の学習指導に関する事
- (7) その他教育研究に関する事

### 【教育施設管理室の事務分掌】

教育委員会の施設及び設備の整備に関する事

### 【教育委員の氏名】

教育長	上野 弘
教育長職務代理者	神谷 敬一郎
委員	佐々木 與 栄
委員	岸本 松 則
委員	中宮 智 子

【自己点検・評価】

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
<p>教育委員会の開催</p>	<p>平成28年4月から平成29年3月までに12回の教育委員会を開催し、次の事項について審議しました。</p> <p>○平成28年第4回教育委員会（4月7日） 報告事項 ・第3回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業17件 審議事項 ・敦賀市子どものための教育・保育に係る利用者負担額等に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定の件 ・史跡金ヶ崎城跡保存活用計画策定委員会委員委嘱の件 ・柴田氏庭園保全整備委員会委員委嘱の件 ・平成28・29年度敦賀市スポーツ推進委員委嘱の件 ・敦賀市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則制定の件</p> <p>○第5回教育委員会（5月12日） 報告事項 ・第4回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業20件 審議事項 ・敦賀市立図書館協議会委員委嘱の件 ・平成28年度敦賀市教育支援委員会委員委嘱の件 ・敦賀市指定文化財の指定について市文化財保護審議会に諮問する件 ・平成28・29年度敦賀市少年愛護センター運営委員会委員委嘱の件 ・平成28・29年度敦賀市社会教育委員会委員委嘱の件 ・敦賀市公民館運営審議会委員委嘱の件 ・学校評議員委嘱の件</p> <p>○第6回教育委員会（5月31日） 報告事項 ・第5回教育委員会議事録の件 ・後援、共催事業17件 ・平成28年6月補正予算の件 審議事項 ・敦賀市指定文化財の指定の件 ・敦賀市立図書館協議会委員委嘱の件 その他 ・敦賀市教育振興基本計画（素案）の件</p> <p>○第7回教育委員会（7月14日） 報告事項 ・第6回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業34件 審議事項 なし その他 ・敦賀市教育振興基本計画（素案）の件</p> <p>○第8回教育委員会（8月4日） 報告事項 ・第7回教育委員会議事録の件</p>	<p>議案はすべて順調に審議され、委員会の運営の効率化を図ることができました。</p> <p>また、平成28年3月に策定された敦賀市教育大綱を受け、昨年度からの委員会及び総合教育会議も含め計11回もの協議を経て、平成28年9月に「敦賀市教育振興基本計画」を策定しました。</p>	<p>①継続</p>	<p>Ⅲ- 1</p>

有効性	B
効果性	B
効率性 (コスト)	B
効率性 (人員)	B

<p>・共催、後援事業5件 審議事項 なし その他 ・敦賀市教育振興基本計画（素案）の件 ○第9回教育委員会（9月1日） 報告事項 ・第8回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業3件 ・平成28年9月補正予算の件 審議事項 なし その他 ・敦賀市教育振興基本計画（素案）の件 ○第10回敦賀市教育委員会（9月29日） 報告事項 ・第9回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業4件 審議事項 ・障がい者等介助者に対する総合運動公園ブ ール使用料減免についての件 その他 敦賀市教育振興基本計画の件 ○第11回敦賀市教育委員会（10月27日） 報告事項 ・第10回教育委員会議事録の件 ・平成28年度9月補正予算の件 ・共催、後援事業10件 審議事項 なし その他 男女共同参画センター移転の件について ○第12回敦賀市教育委員会（11月25日） 報告事項 ・第11回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業8件 ・平成28年度12月補正予算の件 審議事項 ・敦賀市立図書館休館日変更の件 ○平成29年第1回敦賀市教育委員会（1月 12日） 報告事項 ・第12回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業12件 ○第2回敦賀市教育委員会（2月3日） 報告事項 ・第1回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業4件 審議事項 ・敦賀市指定文化財の指定解除について市文 化財保護審議会に諮問する件 ○第3回敦賀市教育委員会（2月22日） 報告事項 ・第2回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業9件 ・平成28年度3月補正予算・平成29年度 当初予算の件 審議事項 ・敦賀市スポーツ施設の設置及び管理に関す る条例施行規則の一部改正の件</p>				
--	--	--	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敦賀市公民館民間館長任用の件</li> <li>・障がい者等介助者に対する総合運動公園トレーニングルーム使用料減免についての件</li> <li>・敦賀市指定文化財の指定解除の件</li> <li>・敦賀市指定文化財の指定について市文化財保護審議会に諮問する件</li> </ul>												
専門委員等の委嘱及び任命等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡金ヶ崎城跡保存活用計画策定委員会委員10名委嘱 任期：平成28年4月8日～平成30年3月31日</li> <li>・柴田氏庭園保全整備委員会5名委嘱 任期：平成28年4月9日～平成29年4月30日</li> <li>・平成28・29年度敦賀市スポーツ推進委員29名委嘱 任期：平成28年4月7日～平成30年3月31日</li> <li>・敦賀市立図書館協議会委員2名委嘱 任期：平成28年4月1日～平成29年8月31日</li> <li>・敦賀市教育支援委員会委員33名委嘱、3名任命 任期：平成28年4月1日～平成29年3月31日</li> <li>・平成28・29年度敦賀市少年愛護センター運営委員会委員9名委嘱 任期：平成28年6月1日～平成30年5月31日</li> <li>・敦賀市社会教育委員会委員14名委嘱 任期：平成28年6月1日～平成30年5月31日</li> <li>・敦賀市公民館運営審議会委員45名委嘱 任期：平成28年6月1日～平成30年5月31日</li> <li>・学校評議員9名委嘱 任期：平成28年4月1日～平成29年3月31日</li> <li>・敦賀市立図書館協議会委員2名委嘱 任期：平成28年7月1日～平成29年8月31日</li> <li>・敦賀市公民館民間館長5名任用 任期：平成29年4月1日～平成32年3月31日</li> </ul>	平成28年度若しくは平成28～30年度の3ケ年にわたる委員の適格・適任について審議し、委嘱及び任命しました。その際に、各種関係機関、団体との連携や専門的な知識が必要とされることを重視しました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
条例・規則等の制定及び改正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敦賀市グラウンド・ゴルフ場の設置及び管理に関する条例施行規則を廃止する規則制定</li> <li>・敦賀市子どものための教育・保育に係る利用者負担額等に関する条例施行規則の一部改正</li> <li>・敦賀市教育委員会事務局組織規則の一部改正</li> <li>・敦賀市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正</li> </ul>	委員の任命基準の設定や法律変更等に伴う関係条例等の制定及び改正を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-8
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
学校(幼稚園)医の検診	<p>校医・専門医・歯科校医・学校薬剤師を委嘱し集団検診や就学時検診を医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携して実施し、児童・生徒の健康管理を行いました。</p> <p>幼稚園においても同様に園医、歯科医、薬剤師と連携し園児の健康管理を行いました。</p>	学校医、専門医等については、学校保健安全法により定められたものであり、医師会や歯科医師会、薬剤師会の協力が得られました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-10 II-6
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

学校間情報ネットワークシステム管理運営	学校間情報ネットワークシステムが支障無く各学校、ハートフル・スクール及び教育委員会にてシステムの使用ができるよう維持管理を行いました。	学校間情報ネットワーク機器の保守委託の範囲を見直すことで、経費削減することができました。	有効性 B 効果性 B 効率性(コスト) A 効率性(人員) B	①継続	II-4 II-5
教育用コンピュータ管理運営	各小中学校に教育用コンピューターを備えた教室を管理し、パソコン用教材のエデュモールを使用した教育実践により、情報教育の向上を図りました。	教育用コンピューターとエデュモールの利用により、ICTを活用した授業の取り組みを推進できました。	有効性 A 効果性 A 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	①継続	II-4 II-5
校舎等改良及び補修工事	各学校に必要な補修工事を実施しました。 ・敦賀南小学校普通教室床改修工事 ・中郷小学校下水道接続工事 外	いずれも、老朽化対応や教育環境向上に伴う改修であり、緊急を要するため早急に対処しました。	有効性 A 効果性 A 効率性(コスト) B 効率性(人員) A	①継続	II-5 II-6
非構造部材耐震補強事業	東浦小中学校、粟野小学校の体育館の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付し、体育館照明器具の振れ止め固定工事を実施しました。	計画的に工事を進め、学校環境の改善が図られました。	有効性 A 効果性 A 効率性(コスト) B 効率性(人員) A	①継続	II-5 II-6
小学校給排水設備改修事業費	中央小学校の児童トイレ及び職員トイレの洋式化を実施しました。	計画的に工事を進め、学校環境の改善が図られました。	有効性 A 効果性 A 効率性(コスト) B 効率性(人員) A	①継続	II-5 II-6
敦賀教育スタンダード事業	・敦賀市「知・徳・体」充実プラン研修会 ・・・2回開催 ・英語指導力向上研修会 ・・・1回開催 ・幼小ブリッジ教育推進計画のためのバス借上 ・・・5回開催	幼児教育から中学校修了までの学びをつなぐ敦賀市「知・徳・体」充実プランに基づく取組を行うことができました。	有効性 A 効果性 B 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	⑤転換	II-3 II-6
地域教育コミュニティ推進事業	・地域教育コミュニティ推進研究事業及び小中接続研究推進事業は、市内全学校において実施しました。	敦賀の自然・歴史・文化に触れるとともに、地域連携、人との交流を図り、各学校の特色ある独自事業を実施し、良い成果が得られました。	有効性 A 効果性 A 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	①継続	II-3
教育関連事業団等の支援	教育関連事業団等に事業の教育振興や教育の充実を図る目的で補助金を交付しました。 ・敦賀市新生教育振興会補助金 ・敦賀高校定時制教育振興補助金 ・特別支援学校就学者奨励補助金 ・特別支援学校通学者支援補助金	各団体に補助金を支出することにより、団体事業の奨励が図れました。 また、児童生徒が他学校の児童生徒との交流を深めたり、保護者同士の交流を設けたりすることができました。	有効性 B 効果性 B 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	④縮小	I-2 I-12 II-6

学校給食あり方検討経費	「学校給食あり方検討委員会」を設置し、学校給食費の単価改定等について検討を行い、学校給食のより一層の充実を図ることができました。	学校給食費の改定に向けて、学識経験者の、PTA関係者、職員等と学校給食費の単価改定等について検討を行うことができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-8
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
教育振興備品の購入	6月頃予算を各学校に配分し、各学校の要求に優先順位を付け、必要な教材備品を購入しました。購入時期は、利用の期日に合わせ適切に設定しました。 また、必要な小学校の鼓隊、中学校のブラスバンドの備品、理科振興備品及び特別支援学級の備品等を適正に整備しました。	各学校と綿密に協議し、要求に添うよう対応することで、良好な教育環境の整備を図ることができました。教育活動に必要な備品が整備でき、学習効果を高めることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-5
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
学校支援員配置事業	小中学校において、授業の補助や気がかりな児童生徒の不安を和らげるなど、学級活動を支援するため、教員資格者を支援員として増配置しました。	学校支援員が学校生活になじめない児童の生活や学習支援を行ったことにより、学級活動が円滑に推進され、児童生徒が心にゆとりを持ち学習できる教育環境の充実が図れました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-6
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
教育振興補助金	小学校の陸上記録会、中学校の体育活動に対する補助を行いました。 また、教育委員会が定める区域の児童生徒が通学定期を購入した場合、年度を4期に分けて、その経費の2/3又は全額を補助しました。	児童生徒の体育活動に対する補助及び通学定期乗車券を購入している児童生徒に対し、通学費(定期代)の補助を行うことによって、教科指導の推進及び保護者の経済的負担の軽減を図りました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-3 II-4 II-6 II-16
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書等の購入	小中学校全校に学校教育に必要な教師指導用図書等を購入しました。 また、学校図書館用の図書を購入しました。	指導書、学校図書を必要部数揃えることができ、教育力の向上が図れました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-4
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
幼稚園備品の購入	幼稚園の要求に優先順位を付け、必要な管理及び教材備品を購入しました。	備品の計画的な整備を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-1
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
休校舎利活用検討	利活用検討委員会を3回開催し、地区団体への校舎利用の斡旋や今後の利活用の方向性について検討することができました。	検討委員会にて、地区のイベント等での校舎利用を斡旋し、地区振興に寄与することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-2 II-1
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												



角鹿中学校校区統合検討経費	角鹿中学校及び敦賀北・赤崎・咸新小学校を統合した小中一貫校の設置の検討を行う「角鹿中学校校区統合検討委員会」を設置しました。	これまでの検討経緯も踏まえ、施設形態・建設地・施設内容・建設費・メリット・デメリットの整理、教職員数の推測等、同校の設置に向けた具体的な検討を行うことができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	⑤転換	I-2
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
教育功勞者の表彰	敦賀市の教育行政に功勞のあった個人及び団体に対し、功勞賞及び奨励賞を授与しました。表彰式：平成28年11月8日実施 受賞者： 教育功勞賞 徳本 範子 (元敦賀市教育委員) 教育功勞賞 藤田 紀雄 (元粟野体育協会会長) 教育奨励賞 別司 芳子 (松陵中学校事務職員)  計 個人3名	教育功勞者の選定、表彰式とも計画的に実施できました。被表彰者については、潜在者の掘り起しが必要です。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-16
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
教育委員会事務事業評価	平成27年度教育委員会事務の自己点検・評価を実施し、9月議会への報告書提出しました。	所管事務の評価により改善点の発見につながりました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-17
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
学校管理運営	学校施設の保守管理として廃棄物処理や設備等の法定点検にかかる委託等を実施しました。また、各学校の電気、水道料金等の光熱水費を支払いました。管理運営に必要な消耗品の購入や小修繕に必要な経費は、予算を年度当初に各学校に配分し、その範囲で必要な消耗品等の購入や修繕を実施しました。また、各学校の要求に優先順位を付け、必要な管理用備品を購入しました。購入時期は、利用の期日に合わせ適切に設定しました。	学校施設の良好な管理運営を図るため、法定点検等の委託を、安全・安心の観点から適切に計画どおり実施できました。また各学校へ予算を配分することで、有効で計画的な運用を図ることができました。各学校と綿密に協議し、要求に添うよう対応することで、良好な管理運営を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-1 II-5
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
学校給食の運営	自校給食校の給食室備品の老朽化に伴う、計画的な整備や調理に必要な光熱水費・下水道料金等の支出、調理員の被服等貸与等の業務を実施しました。	給食備品の計画的な整備や、給食運営に支障がないよう対応ができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-5 II-6 II-7 II-8
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
学校保健用備品の購入	各学校の要求に優先順位を付け、必要な保健室備品を購入しました。	保健室備品の計画的な整備を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	I-10 II-5 II-6 II-7
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

教職員の健康診断	教職員の健康診断を市職員と同等の検査を行い、教職員の健康管理の促進を図り、更なる職務能力と資質向上に努めました。夏休み4日間、中郷公民館にて県費教職員の健康診断を実施しました。	教職員の健康診断を行うことにより、教職員の健康状況が把握できました。	有効性 B 効果性 B 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-6
スクールバスの運行	◆スクールバス運行业務委託 ・愛発地区～中郷小学校 ・中郷地区～中郷小学校 ・愛発地区～気比中学校 ・東浦地区～敦賀北小学校 ・西浦地区～松原小学校 ・西浦地区～松陵中学校 ・東郷地区～成新小学校	事故・トラブルもなく、児童生徒を安全に登下校させることができました。	有効性 B 効果性 B 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	I-2 I-12 II-6
ソーシャルワーカー配置事業	市内小中学校18校を巡回訪問し、児童生徒の実態に即した重点的な指導及び改善計画をもって、各校の教育相談体制の構築・支援に努めました。	各校を定期訪問し、教員等から直接、初期の段階で気がかりな児童生徒の情報を把握しました。	有効性 A 効果性 A 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-3 II-6
道徳教育総合推進事業費	家庭と地域が連携しながら児童の道徳性を高めるため、地域の方等を講師として招き、保護者を参加した「親子で学ぶ道徳講座」を開催しました。	地域の方等を講師として招き「親子で学ぶ道徳講座」を開催する等、地域が連携しながら、児童の道徳性を高めることができた。	有効性 B 効果性 B 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-3
教育課程研究指定校事業費	角鹿中学校及び3小学校を統合する小中一貫教育の実現に向けて、小中学校を円滑につなぐ教科指導及び指導体制の工夫改善等について研究を行いました。	国立教育研究所の指定を受け、小中学校を円滑につなぐ教科指導及び指導体制の工夫改善等について研究を行うことができた。	有効性 A 効果性 A 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-3
不登校対策適応指導	スクールカウンセラーや指導員により、個別カウンセリング・集団指導等の適応指導及び自然体験や社会体験で自立性や意欲を高めるとともに、各校への訪問指導や保護者への教育相談指導を行い、集団への適応力を培いました。通所者数 9人	月2回ハートフル・スクールで、不登校の児童・生徒並びに保護者等にカウンセリングを実施し、学校への復帰を支援しました。	有効性 B 効果性 A 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-3 II-6
いじめ110番相談員配置事業	2名のいじめ相談員をハートフル・スクールに配置し、いじめ相談や児童・生徒の悩みなどの不安解消に努めました。相談件数587件(うちいじめ1件)	電話相談以外にも積極的に学校等を訪問し、教員に適切なアドバイスを行うことで、児童・生徒の不安解消に適応した対策が実施できました。	有効性 A 効果性 A 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-3 II-6
白木地区児童生徒教育事務委託	・美浜町教育委員会と協議し、教育事務委託を実施 ・事務委託料の算定については、美浜町交付税単位費用額を参考に委託額を算定し、3年に1度、事務委託の算定額の見直しを行っています。	白木地区の児童生徒が敦賀市の小学校・中学校へ通学するより近い、美浜町の学校に教育事務委託することにより、より安全に教育を提供しました。	有効性 B 効果性 B 効率性 (コスト) B 効率性 (人員) B	①継続	II-2 II-16

要保護・準要保護児童生徒就学援助	各小中学校において経済的理由により就学困難な児童・生徒（429人）の保護者に就学援助を行いました。 学用品費等、学校給食費、修学旅行費、校外活動費、医療費の補助を年3回長期休業前に校長から保護者に支給し、経済的負担の軽減を図りました。	就学援助を行うことによって、就学困難な児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図り、児童生徒の就学機会を確保するとともに、学校が集金する必要額の未納対策にも効果的でした。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-6
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
特別支援学級就学奨励	各小中学校の特別支援学級に在籍する、児童・生徒（91人）の保護者に就学奨励を行いました。 学用品費等、学校給食費、修学旅行費、校外活動費、医療費の補助を年3回長期休業前に校長から保護者に支給し、経済的負担の軽減を図りました。	特別支援学級に在籍する児童生徒に就学奨励を行うことによって、保護者の経済的負担の軽減を図り、児童生徒の就学機会を確保するとともに、学校が集金する必要額の未納対策にも効果的でした。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-6
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
消耗教材等整備	各小中学校に必要な教材消耗品や教材備品等の修繕を行いました。	予算配分の中で、学校運営に支障がないように予算執行できました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-5
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
私立幼稚園の教育振興	5月1日現在の園児数に園児1人当たり1万円を乗じた額を私立幼稚園に対して補助しました。 10,000円×290人=2,900千円 本補助金で教員を加配し、教育内容や延長保育など保護者のニーズに対処できました。	各幼稚園はこの補助金により各園の教育内容や延長保育など管理運営の充実が図れました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-13
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
施設型給付事業費	子ども・子育て支援新制度へ移行する「幼稚園」「認定こども園」に対して、教育・保育に要する経費を給付しました。	各幼稚園の施設整備の充実、延長保育など管理運営の充実を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-13
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
一時預かり等事業費	幼稚園・認定こども園において、敦賀市の子ども・子育て支援事業計画に従って実施する延長保育事業、一時預かり事業等の実績に対し、交付金を交付しました。	児童の保護者が就労又は疾病その他特別な理由のため、家庭での保育に欠ける児童を緊急又は一時的に保育することにより、当該児童の健全な育成を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-13
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

○給食センター

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
学校給食 食材料の 購入	学校栄養教職員が作成した実施献立に基づき材料を購入した。納入の際には、職員立会いのもと検収を行い、納品された数量や品質の確認を行った。また、各業者に対して産地・加工地・成分分析等の確認を徹底し品質管理の確保や毎日の納入遅延防止や数量把握の確認を行った。	納品の遅れや間違い及び品質に問題なく食材料の購入が出来た。積極的に県内の食材を利用した地産地消の拡大を図った。	①継続	Ⅱ - 9
給食センター管理 運営	安全で衛生的な作業環境を整え円滑な業務運営を行うため、施設の保守点検等の業務委託や施設内の衛生面を確保し、食中毒防止に努めた。 調理業務等に欠かせない燃料・電気・水道代は、節油・節電・節水等を行い経費削減に努め、光熱水費に大きな影響もなく、業務を支障なく実施した。	食中毒や機器の故障による大きな問題もなく管理運営が出来た。	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 8
給食センター施設 管理	施設及び設備は年数が経過しており、経年劣化による故障が増加し、毎年計画的に修繕を実施しているが、突発的故障は随時発生している。調理業務に支障ないよう常に点検を行い、異常を発見した時点で修繕を実施した。	業務に支障なく施設管理が出来た。	①継続	Ⅱ - 8
給食調理 業務	学校給食センター供給校への給食調理業務及び敦賀市防災計画に基づく学校給食センターの災害対策事務分掌（炊出し班）の業務を委託した。 調理機器の取扱いや学校栄養職員が作成した実施献立に基づき調理業務から配送までの時間配分に留意し業務を実施した。また、受託者における調理器具等の日常点検及び取扱い研修の実施により、調理従事者の安全衛生管理を徹底するよう指示し、業務を実施した。 業務委託を平成16年度に開始し13年が経過している。  【給食日数】 199日 【給食供給校別】 ・完全給食校 小学校5校・中学校2校・幼稚園1園 ・米飯供給校 小学校2校・中学校2校 【供給回数及び延食数】 ・完全給食校 小学校 191回 404,281食 中学校 186回 165,000食 幼稚園 181回 6,637食 センター199回 6,240食 小計 582,158食 ・米飯供給校 小学校 95回 89,669食 中学校 96回 98,905食 小計 188,574食 合計 770,732食	学校行事に大きな影響を及ぼすこともなく、調理業務が実施出来た。	①継続	Ⅱ - 8

<p>給食配送業務</p>	<p>学校給食センターで調理した給食の供給校への配送及び回収業務を委託した。配送までの時間配分に留意し調理された給食を配送専用車に積み込み供給校へ配送・回収業務を実施した。また、受託者において配送専用車の日常点検・定期点検等や業務従事者への安全衛生管理を徹底するよう指示し、業務を実施した。</p> <p>業務委託を平成15年度に開始し14年が経過している。</p> <p>【配送日数】 199日</p> <p>【配送車両】 3t車3台・1.5t車1台 計4台</p> <p>【配送及び回収時間】 配送 10:20~11:40 回収 13:00~14:35</p> <p>【給食配送先】 ・完全給食校 小学校5校・中学校2校 幼稚園1園 ・米飯供給校 小学校2校・中学校2校</p>	<p>配送専用車の故障や交通事故は、学校給食に大きな影響を及ぼすところであるが、問題なく配送業務が実施出来た。</p>	<table border="1"> <tr> <td>実現度</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果度</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率度 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率度 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 8</p>
実現度	B												
効果度	B												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												

## 生涯学習課 自己点検・評価報告書（まとめ）

生涯学習課関係事業は各種講座・学級の開設や自主学習教室の育成など、生涯学習の推進と、少年交歓研修、成人式、地区の祭りの運営協力など人づくり、地域づくりの推進を目指して事業を行いました。

### ① 数値目標の達成状況と分析

【主催事業利用者実績（年度末）・・講座・教室・学級・行事参加数】

※10ヶ所（9公民館及び生涯学習センター）

H26年度	67,250人
H27年度	55,837人
H28年度	59,132人

【増減理由】

- ・自主学習教室総数では昨年比3,295人の増加ですが、これは主に松原公民館利用者3,628人増加によるものです。
- ・今年度も、公民館が主催する各種学級や教室に参加する人数は若干減少しており、公民館が住民ニーズを把握し、魅力ある教室が開催できるよう見直していくことが必要と考えます。また、地域の住民が自ら行う自主学習教室については若干増加しており、今後も社会教育の重点施策「社会教育施設の円滑な運営」にある生涯学習の立場にたって、地域住民の多種多様な学習要求に応えると共に、自主的で活発な学習活動が展開されるよう、学習機会の拡充と内容の充実に努めます。

【生涯学習施設利用者数（年度末）】

H26年度	117,238人
H27年度	127,534人
H28年度	124,367人

【増減理由】

- ・施設の利用者数は平成25年度以降増加に転じていましたが、今年度は昨年度比3,167人の減少となっています。行政関係団体の利用が減少していることが主な原因と考えられます。
- ・生涯学習課及び公民館は、社会教育の方向や公民館運営方針に基づいて地域の実情に応じた施設の目標を設定し、毎年PDCAサイクルによる継続、見直し、新たな目標を地域住民とともに共有し目標の実現するために努めています。

### 【大会、研修会参加数（年度末）】

H26年度	2, 279人
H27年度	2, 839人
H28年度	2, 964人

### 【増減理由】

- ・公民館が主催し開催した各種大会等（文化祭、カルタ大会、演芸のつどい、講演会、囲碁将棋大会等）に参加した人数です。
- ・各種大会については、公民館が主催する場合と主催を団体と併せて開催する場合、または団体が主催する場合に分かれます。
- ・松原公民館の新築移転に伴い、利用数が増加していることに加え、今年度限りで開催した著名人の講演会が影響していると考えられます。
- ・住民が自ら主催する事業を増やしていくことは公民館の指導力でもあり、今後、地域社会が必要とするリーダーの育成に公民館が各種団体と連携し、バックアップしていくことが求められると分析します。

## ② 生涯学習推進事業について

生涯学習センターでは以前から受講希望者の多い講座を8種（語学6講座、趣味4講座）開講するとともに、市民からの要望や意見、受講者のアンケート調査を行い、講座の内容などの見直しました。今年度は趣味の講座を1講座を取りやめ、新たに3講座を増やしたことにより、受講者の増加に繋がりました。

一方、公民館では、高齢者学級、女性学級などを開催し、健康、交通安全、子育て、時事問題など地域住民の身近にある様々なテーマで学習の場を提供し住民の自己研鑽に役立ちました。

また、生涯学習課と公民館において、受講生が自主的に運営している各種自主学習教室につきましては、運営の助言をし、発表の場である文化祭開催の協力をすることで自主学習活動の育成を図り、住民の生きがいがいづくりに努めました。

## ③ 心ゆたかな人づくり事業について

平成28年度の姉妹都市水戸市との少年交歓研修につきましては、第49回目となる派遣は例年どおり8月に行いました。なお、51回目の受入については、3月末に実施し、交歓の期間を6ヶ月開けることで子ども達の負担を軽減することができ、交歓研修を途切れることなく継続して実施することができました。

また、成人式も例年通り開催し、新成人の企画運営委員による進行で挙行了ました。しかし、一部新成人において、式典の進行の妨げとなるような行動が見受けられましたので、式典の運営体制の見直しを検討するほか、新成人の自

主性や協働意識を高められるよう、企画運営委員と調整を行っていきたいと考えております。

子育て講座として、保護者に対して、家庭教育の重要性や具体的な方法について学習する機会を就学児健康診断時に市内の11（市内13小学校の内3校合同開催）の小学校において実施し、好評を得ることができましたので、今後も継続したいと考えています。

#### ④ 地域づくり事業について

生涯学習課ではふるさとづくり運動、小さな親切運動、敦賀市民憲章推進運動などを推し進め、また、人権研修会を開催するなどぬくもりのある地域づくりを目指しました。

なお、人権啓発に関連しては、愛発公民館において人権教育研修会を開催したほか、年末の人権週間に合わせて毎年開催しています敦賀市人権教育指導者研修会には、市民一人ひとりが人権問題についての認識を深め、人権尊重の社会が確立するよう努めました。

また、公民館では、地区の祭り、体育大会、クリーン作戦などを住民と力を合わせて開催し、地区の豊かなコミュニティづくりを目指しました。今後も地区の特性を活かした事業展開を目指していきたいと考えています。

今年度から地域コミュニティモデル事業として、住民主導で地域活性化、世代間交流、防災等の事業を通じて、地域振興を図る地区に取り組む組織に交付金を交付し、組織を支援しました。今年度は粟野コミュニティ運営協議会から申請があり、様々な事業に取り組んでおりますが、他地区においても、住民による自主的なコミュニティ活動を支援できるよう、交付金の取り扱いを関係課において検討する必要があると考えています。

#### ⑤ まとめ

以上のような事業を実施してまいりましたが、自主学習教室については、社会全体の高齢化に伴い受講生も高齢化の傾向にありますが、生涯学習センターと各公民館で教室を開催し、受講しやすい環境を整備することで年々受講者数が増え、各年度とも3万人を超えています。

生涯学習課及び公民館の自主学習教室をはじめとする主催事業の年間参加人数は、平成23年度から比較して段階的には減少していますが、特に生涯学習課が主催で開催している講座で、敦賀市の特色ある生涯学習に繋がるような語学講座（ロシア語、韓国語、中国語、英語）の受講者を増やすことや、市民のニーズにあった講座を開催するために、今年度はフラワーアレンジメント講座を見直し、ヨガ教室、手芸教室、バイオリン教室を短期講座として開催しまし



た。

敦賀市社会教育委員が平成12年から一貫して提言している家庭教育に関して、平成23年度からは小学校就学児健康診断時に子育て講座を開催していますが、保護者から好評の評価を得ているので今後も継続いたします。

さらに、社会教育委員の家庭教育についての自主研究として、家庭教育に関する資料を収集し、社会教育委員に紹介するほか、元小中学校長から家庭教育に関する話題を提供してもらい、その話題提供者を交えて意見交換を実施し、家庭教育支援に努めていきます。

小学生などの公民館利用については、今年度から放課後地域子ども教室を東浦地区でも開催し、合計8公民館で行いました。初めての開催となった東浦公民館では、1回の開催でしたが、56名の参加があり、今後もこどもたちに興味を持ってもらえるような内容を検討していくとともに、現在、未実施の愛発地区でも、取り組めるよう考えております。

また、以前から生涯学習課や公民館を利用する方は、どちらかというところ高齢の方や婦人が多く若い方は少ない傾向がありましたが、幅広い年齢層の方に受講していただくため、新しい講座として介護や健康、食生活に関するものや親子で楽しめるものを取り入れ、公民館を取り巻く地域住民を対象として実施しました。これらの講座は内容の性質上、年間を通して開講するものにはならないため、延べ参加人数はそれほど増えるものではありませんが、生涯学習のきっかけづくりとなること、そしてこれまで生涯学習課や公民館を利用されてこなかった方に、利用していただくことも大いに意義あることととらえていますので、各公民館が積極的に地域の特色を生かして発案した事業を予算化し、新規利用者を増やす取り組みをしたいと考えています。

## 図書館 自己点検・評価報告書（まとめ）

### 図書館業務

図書館の開館時間は、図書館運営規則により平日は午前10時から午後7時まで、土・日曜日は午前10時から午後6時までとなっておりますが、5月から9月までの期間を、教育委員会の承認を得て午前9時30分からの開館時間といたしました。

30分早く開館することにより、市民の利用ニーズに対応できる環境を整えています。第6次敦賀市総合計画後期基本計画及び教育振興基本計画により「地域の知の拠点」の機能に加え、「まちづくりの拠点」としての機能を併せ持つ施設として、市民が利用しやすい環境づくりを進め、利用者の増加に努めてまいります。また、敦賀市子ども読書活動推進計画作成いたしましたので、子どもから大人まで幅広く読書に親しみ、次代を担う子どもたちの健全な育成を目標とし、家庭や地域、学校などと協力・連携して読書推進活動を総合的かつ効果的に進めてまいります。

### 図書館利用状況（栗野公民館図書コーナーを含む）

	開館日数	のべ利用者数	1日平均利用者数	のべ貸出冊数	1日平均貸出冊数	登録者数
平成26年度	278	196,857	708	317,779	1,143	876
平成27年度	274	206,560	754	312,220	1,139	924
平成28年度	274	193,562	706	298,285	1,089	756

### 図書予約状況

(件)

	予約総数	ネット件数	窓口件数
平成26年度	19,009	14,520	4,489
平成27年度	17,410	13,067	4,343
平成28年度	15,700	11,463	4,237

### 図書館の管理運営

図書館システムの堅実な運用を確保し、館内各設備機器等の確実な動作と安全のための保守管理・施設等修繕を実施し、円滑な運営を行いました。

また新図書館システムへの移行をスムーズに実施いたしました。

今後も図書館業務の効率化・迅速化を図り利用者の利便性向上に努めます。

## 図書の購入

図書の購入については、見計らい本並びにブックキャラバンの書籍そのものを確認し、児童書・一般書等を選書し、書架への配架をスムーズに実施いたしました。

今後も、特色ある図書館を目指し、「地域の知の拠点・まちづくりの拠点」として市民の学習・情報発信の拠点として蔵書の充実に努めます。

図書館蔵書受入状況

(冊)

	前年度 蔵書冊数	購入冊数	寄贈冊数	その他	除籍冊数	3月末 蔵書冊数
平成26年度	252,969	5,823	836	1	3,887	255,742 (2,773増)
平成27年度	255,742	6,402	538	1	6,345	256,338 (596増)
平成28年度	256,338	5,241	3,273	2,140	4,905 (システム再確認 3,204冊を含)	262,087 (5,749増)

蔵書の総合的再確認と再調査を行ったため、前年度より5,749冊の増加となりました。

## ブックスタート事業

ブックスタート事業は、生後7ヶ月の乳児（健康管理センターの7ヶ月児すくすく相談事業に合わせる）から親子で本にふれあうことの大切さをアドバイスし、乳児とその保護者が向かい合い、心ふれあうひとときをもつ、契機とすることができました。

今後も、より多くの親子が絵本を開く時間の楽しさを、一層体験できるよう努めていきます。

ブックスタート参加状況

(人)

	対象者数	図書館	子育て総合 支援センター	栗野子育て 支援センター	合計 参加者	参加率
平成26年度	594	158	110	151	419	71%
平成27年度	560	175	118	141	434	78%
平成28年度	560	158	121	150	429	77%

## 図書利用推進事業

図書利用推進事業は、学校図書館や幼稚園、保育園等にも図書を配架し、図書の利用推進を図りました。

配架先は41施設で実施しており、今後も事業推進を図ってまいります。

### 図書利用推進貸出状況

	貸出施設数	貸出冊数
平成26年度	33施設	19,922冊
平成27年度	30施設	19,230冊
平成28年度	41施設	20,975冊

### 視聴覚ライブラリー

家庭環境でも視聴覚機器等は充実してきている関係もあり、利用状況が伸びることは期待できない状況ではありますが、休校施設のパソコン機器でリニューアルを実施いたしました。今後も視聴覚資料の充実と環境整備等を実施して、利用者の拡大を図ります。

### 視聴覚コーナー利用統計

(人)

	DVD	インターネット	音楽CD 他	合計	大人	子ども	1日平均
平成26年度	4,469	506	240	5,215	1,902	3,313	19
平成27年度	4,470	1,074	205	5,749	2,379	3,370	21
平成28年度	2,711	1,142	72	3,925	1,727	2,198	15

平成27年度と比較して数字が落ちているのは、機械の不具合により使用不可の機器が多く出たためである。3月にリニューアルを行いました。

平成28年度のDVD・CD購入枚数は53枚です。

## プラザ萬象自己点検・評価報告書(まとめ)

プラザ萬象は、市民相互のふれあいの場、つどいの場、団体活動推進の場として、あらゆるニーズに応えられるよう総合的な機能を持った多目的会館です。

### ① 数値目標の達成状況と分析について

#### 【利用者数実績 (年度末)】

H26年度	107,625人
H27年度	103,348人
H28年度	74,315人

#### 【増減理由】

- ・H28年度は、前年比29,033人減となった理由として、屋上等の改修工事をした際に、利用に制限をかけたためです。また、昨年度からも行っておりますが、会議室の利用において、利用の希望があれば空いている限り利用して頂くことを心掛け、利用者数の増加につなげていきたいと考えています。
- ・H27年度までは、大勢の方が集う教育フェアが実施されたことや、青少年健全育成の全国大会が開催されたことで、利用者数が多くなっていましたが、今年度はそれらの大型フェアや大会がなく利用者減にもつながっています。

### ② 利用者の拡大について

プラザ萬象は総合的な機能を持った多目的会館ですので、舞台での催し、展示、祝宴、会議など様々な用途に利用できること、JR敦賀駅から近いうえ駐車場も広くアクセスしやすいこと、休日に比べ平日はホールの使用料を低額に設定していることなどを、すでにホームページでPRし利用者の拡大を目指してきました。また、平成26年度に入って市内のギャラリー閉鎖による展示発表場所不足の要望から、多目的室を市民ギャラリーとして改修し、利用促進を図っていますが、有料であるからか、利用が伸び悩んでいます。今後は老朽化に伴う改修工事も必要となってくることから、利用者数が今年度のように減少するケースが考えられます。施設の維持には必要な改修工事であるため、なるべく利用者があまり不便にならないよう配慮した工事時期や工事内容を検討し、利用者の落ち込みを最小限にしていくことが必要であると考えます。

### ③ 利用しやすい環境づくりについて

職員の受付事務や、催事の運営等に関する助言や協力もこれまで同様丁寧に行うとともに、出来る限り利用していただく方の要望に答えるよう、「断らない」受付を心がけていきます。建物・設備の管理についても年次及び長期計画を立て維持修繕を施し、皆様に気持ちよく利用していただけるように引き続き努めてまいります。

## 少年愛護センター 自己点検・評価報告書 (まとめ)

少年愛護センターは、青少年の健全な育成を図ることを目的に、各関係機関や青少年育成団体と連携し、補導活動、相談活動、青少年健全育成活動に取り組みました。

補導巡視における青少年への声かけにより、地域の人に見守られているという意識付けを行うとともに、体験行事、自己研鑽行事、啓発行事への参加を通じて、青少年の豊かな心の醸成に役だてることができました。

なお、育成者や市民全般へは行事を通じ、青少年育成の環境浄化や安全確保の意識を高める取り組みを行いました。

また、家庭教育や青少年自身からの悩み相談に対応することで、心身ともに健やかな青少年の成長に資することもできたと考えています。

### 1. 青少年補導活動について

補導とは、その地域に住んでいる社会人としてわが子を愛し、わが子を愛するように地域の子を愛し、いま住んでいる地域を愛するという気持ちで子どもたちに温かい目を注ぎ健やかな成長を見守る活動であり、平成28年度は97名の補導員により2人1組で年間を通じ延べ673回補導巡視を実施しました。

不良行為や非行につながりそうな行動をしている青少年がいたら「愛のひと声」運動を実施し、1年間に延べ975人の青少年に声かけを行いました。

声かけをおこなった場所としては、ゲームセンター・ゲームコーナーや量販店・書店が多く、その他公園・社寺・路上などでも声かけを行っています。

出来る限り多くの青少年に声かけを行いたいと考えていますが、近年、スマホなどのインターネット接続機器の普及により、子どもたちが外出することが極端に少なくなり、年々声かけ人数は減少しています。

また、ネット機器の使用によるトラブルが増えてきていることに対応した声かけを、今後検討する必要があると考えています。平成28年度も例年通りの4回の補導員研修に加え、各務原市補導員との意見交換会を実施し、現在の青少年の生活形態に対応する声かけの在り方について協議を行うなど補導員の知識と技術の向上に努めましたが、明確な答えを導くことは単発的な検討ではできませんので長期的に考える必要を感じており、今後検討していきたいと考えています。

なお、青少年を取り巻く環境を少しでも良くするために、毎年1回、福井県からの依頼で実施している青少年を取り巻く社会環境調査において、28年度から新たに携帯電話機等販売店に対する調査も実施し、青少年に販売するときはフィルタリングの推奨をしているかどうかなどの確認を行いました。

## 2. 相談活動について

「家庭教育相談」と「青少年の悩み相談」を中心に相談活動を行っており、平成28年度の相談件数は延べ98件ありました。

傾向としては児童生徒からの性格・行動などや一般青少年からの人生問題などが多くよせられ、いずれの相談にも誠心誠意、共感的に対応をし、相談者が前向きに考えていけるよう導くことができました。

なお、少年愛護センターの家庭教育相談員は、年間51回小中学校を訪問し、教職員に対し、児童生徒の生活指導に関するアドバイスをを行いました。

## 3. 青少年健全育成活動について

少年愛護センターと青少年健全育成敦賀市民会議は連携して、地域の子どもは地域ですこやかに育てようをスローガンに各種青少年健全育成行事を実施し、親子、仲間、地域とのふれあいの場を提供したり市民に明るい環境づくりを訴え、地域住民の積極的な協力により地域の子ども達を守り育てる意識の高揚に寄与しました。

- ・ 5月15日「親子のフェスティバル」を開催し、約20,000人の参加を得ました。
- ・ 6月11日青少年育成敦賀市民大会を開催し、約700人の参加を得ました。
- ・ 「青少年からのメッセージ・青少年へのメッセージ」作文、図画・ポスターの募集を行い、6,834通の応募があり、優秀作品を表彰しました。
- ・ 小学4～6年生を対象とした「ひまわり塾」を7月から10月に計4回開催し、延べ81名の参加を得ました。郷土の食材作りの体験学習と施設見学による社会学習を行い見識を深めました。
- ・ 青少年育成推進員及び一般市民を対象に子どもの安全を守る知識を得ることを目的とした研修を開催し、65名の参加を得ました。



### 利用団体及び利用者数について

平成28年度に当施設を利用した団体数及び延べ人数は、130団体、7,412人で、前年度に比べ団体数で13団体、延べ人数で1,032人伸びた。増えた要因としては、リピーター数が増加したことや、市外の利用団体が増えていることが挙げられる。

当施設は子供たちが集団生活と周囲の自然に触れあい様々な体験学習が行える数少ない社会教育施設であり、今後も学校や子ども会等と連携を密にし、隣接市町も視野に入れた、広域的な利用者数の拡大を目指したい。

また、閑散期には企業や団体等に研修等の場としての利用をPRし、施設の有効利用を図りたい。

### 主催事業について

子ども達が心身ともに健全に育つよう施設周辺の自然に親しみ触れ合い活動することを目的に、昨年まで5回開催していた内容を見直し、年2回とし、野坂山の秋と春を満喫できる内容とした。

9月は「秋のふれあいキャンプフェスタ」を1泊2日で開催したところ、48名の親子の参加で賑わった。2月は「早春のふれあいフェスタ」に25名の参加があった。

### 施設管理及び運営について

利用者が安全にまた快適に利用できるよう各種保守点検・維持管理業務を専門業者に委託しており、利用団体の使用状況を業者と連絡を密にし、安全管理と清潔面に気をつけた。

施設については、昭和54年開館以来36年以上経ち、維持管理に費用がかかりそうな機械や建物施設の劣化も目立つことから、計画的に修繕を図りたいと考えている。

生涯学習課

【生涯学習課の事務分掌】

- (1) 社会教育に必要な援助に関する事。
- (2) 社会教育委員の委嘱に関する事。
- (3) 社会教育施設の整備に関する事。
- (4) 社会教育と学校教育の連携に関する事。
- (5) 家庭教育に関する学習の機会の提供及び奨励に関する事。
- (6) PTA、社会教育団体等諸機関の指導育成に関する事。
- (7) 青少年の体験活動に関する事。
- (8) 社会教育に関する調査統計に関する事。
- (9) 生涯学習センターに関する事。
- (10) 図書館に関する事。
- (11) プラザ萬象に関する事。
- (12) 少年愛護センターに関する事。
- (13) 少年自然の家に関する事。
- (14) 公民館に関する事。
- (15) その他社会教育に関する事。

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類									
社会教育委員の活動	社会教育委員会議を4回開催し、社会教育事業について話し合いを持ちました。 家庭教育の自主研究として、資料収集や、元小中学校長からの話題提供と意見交換を行いました。	社会教育委員の活動により、社会教育活動が市民と行政との緊密な連携のもとに進められています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 社会教育の充実・発展のため、今後も活動を継続します。	Ⅱ - 9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
社会教育指導員の活動	生涯学習課に1名の指導員を週3日勤務させ、社会教育に関する指導や団体の育成に取り組みました。	人権教育などの指導を行い、社会教育活動の推進に寄与しました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 豊富な知識を活かした指導的役割は、社会教育施設の事業推進に重要な役割を果たしており、今後も継続します。	Ⅱ - 9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
成人式の開催	平成28年度に20歳となる新成人を対象に成人式を開催しました。 対象者657名のうち568名参加のもと、新成人による企画運営委員により、式典の受付や司会進行、アトラクションを行い、一部新成人による進行の妨げがありましたが、無事執り行うことができました。	新成人としての自覚を持つこと、自主性を高めること、市との協働という意識を持っていただくことに役立てることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 成人としての意識の啓発を図るための行事であり、人づくりとして重要なため継続します。	Ⅱ - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
姉妹都市水戸市との交流	小学6年生から16名の研修生を募り、夏に2泊3日の訪問研修を実施し、受け入れを29年3月に実施しました。	研修を通して、両市の歴史や文化を知り、研修生どうしの交流・親睦を深め、姉妹都市としての親善友好の絆をさらに深めるとともに、郷土愛の高揚を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	①継続 青少年健全育成を推進し、長期に渡る両市の親善友好の絆を深めるために継続します。	Ⅱ - 9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												

ふるさと 創り運動 の推進	ふるさと創り運動の団体(あすの福井県を創る協会)へ負担金と生活学校へ補助金を交付し、町づくりや地域活性化の推進を図りました。 あすの福井県を創る協会の活動・・県民のつどい開催、ラジオ体操運動の推進等 生活学校の活動…3R運動の推進、食育講習会開催等	地域での地道な活動を継続することで、町づくりの活性化が図られています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 地域での活動の継続により、町づくり、人づくりの活性化が期待されますので継続します。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
小さな親 切運動の 推進	「小さな親切運動」敦賀支部の事務を取り扱うと共に補助金を交付し、町づくりや人づくりを通して市民相互の連帯意識の高揚、地域の活性化を図りました。 「小さな親切運動」敦賀支部の活動…あいさつ運動の推進、クリーン作戦実施・親子フェスティバルへの参加、実行章の推薦及び表彰等	会員の積極的な活動の展開により、支部活動が市民へ浸透し地域活性化の目的を果たしています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 地域社会のさらなる活性化と豊かな人づくりに重要な活動ですので継続します。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
連合婦人 会の支援	敦賀市連合婦人会へ補助金を交付し、婦人としての教養を高めるとともに、青少年の育成をはじめとした奉仕活動を通して地域の活性化を図りました。 敦賀市連合婦人会の活動・・交通安全街頭指導の実施、敦賀マラソン協力等	会員の研修や仲間作りの推進により、生きがいのある地域社会の形成に努めることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 地域のさらなる活性化と豊かな人づくりに重要な活動ですので継続します。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
P T A連 合会の支 援	敦賀市P T A連合会へ補助金を交付し、P T Aの活性化や児童・生徒の健全育成のための諸活動を支援しました。 敦賀市P T A連合会の活動・・教育長と語る会、子どもの幸せを考えるつどいの開催、市P連だよりの発行等	児童・生徒の健全育成に関し、学校・地域・家庭の連携の強化に努めることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 青少年健全育成と豊かな地域づくりに重要な活動ですので継続します	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
敦賀市民 憲章推進 会議事業 推進	敦賀市民憲章推進会議の事業を推進するとともに補助金を交付し、地域づくりを推進し敦賀市民としての郷土愛を高め、誇りあるふるさとづくりの推進に努めました。 敦賀市民憲章推進協議会の活動…広報紙コンクールの開催、青少年健全育成環境浄化パレード参加等	敦賀市民憲章の普及啓発の継続と、市民の郷土愛の高揚に努めることができ、心豊かな人づくりに貢献することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 心豊かな人づくりに大いに意義のある事業ですので継続します。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
青少年育 成団体の 支援	敦賀海洋少年団、敦賀スカウト連絡協議会及び粟野子育てネットワークへ補助金を交付し、団体の育成と事業活性化を図りました。 敦賀海洋少年団の活動…ロシア人墓地清掃奉仕、カッターレースの開催等 敦賀スカウト連絡協議会の活動…子どもの国祭り出店、親子フェスティバル参加等 粟野子育てネットワークの活動…親子体験学習会、悩み事相談の実施等	青少年育成団体の育成、事業活性化に役立ち、青少年の健全育成に寄与することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 青少年健全育成と豊かな地域づくりに重要な活動ですので継続します	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

<p>その他の活動</p>	<p>人権教育指導者研修会を開催するとともに、社会教育指導員研修会、人権教育研修会等に参加しました。敦賀市体験活動支援センターのホームページにて、情報を随時掲載し、体験活動への参加を呼びかけました。市内11小学校(市内13校の内3校合同)で、新入学児の健康診断の際、保護者に子育て講座を開講しました。公民館職員研修(8回)を開催しました。</p>	<p>人権知識の向上が図られ、人づくりに役立ちました。情報誌は児童の健やかな育成に役立ちました。新入学児童保護者の子育て基礎知識の習得に役立ちました。公民館職員の資質向上に役立ちました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続 人権教育、青少年健全育成活動は継続した活動が必要です。また、公民館職員の資質向上は、公民館活動の活性化に必要ですので継続します。</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>舟川休憩施設の建設</p>	<p>旧愛発公民館解体跡地に、「愛発舟川の里」として、トイレ・休憩所及び歴史資料展示室を備えた休憩施設を建設しました。</p>	<p>休憩施設を建設することにより、地域を訪れる観光客におもてなしをすることができます。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	<p>②完了 休憩施設が完成しましたので、事業を完了します。</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
<p>松原公民館の建設</p>	<p>昭和50年に建築した松原公民館が老朽化し狭小なため、松原公民館を新松島町に建設しました。</p>	<p>隣接する公園と一体的に整備することにより、環境面にも配慮した公民館を建設することができます。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	<p>②完了 公民館、及び松島第4公園が完成しましたので、事業を完了します。</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
<p>生涯学習課の各種講座等の開催及び自主学習教室の育成</p>	<p>英会話講座 90回開催 中国語講座 30回開催 ロシア語講座 30回開催 韓国語講座 30回開催 フラワーアレンジ講座 11回開催 手芸講座 4回開催 ヨガ講座 4回開催 バイオリン講座 3回開催 ペン字・筆ペン講座 30回開催 合計 221回 市民かるた大会開催 こどもかるた大会開催支援 市長杯囲碁将棋大会開催 王座戦囲碁将棋大会共催 生涯学習センター文化祭(自主学習教室による)開催  各種講座及び各種自主学習教室(生涯学習センター分) 平成28年度9, 348名 (7, 262名) (内訳) 各種講座 3, 842名 (4, 016名) 各種自主学習講座 5, 506名 (3, 246名) ( )内はH27年度実績 ニーズの高い講座の実施に努めたことにより、幅広い年齢層の方に受講いただくことができました。</p>	<p>語学講座においては、各国語の基礎知識と国際性豊かな教養を身につけました。ペン字・筆ペン講座等においては、個人の自己研鑽のための内容、あるいは地域社会や職場でも役立つ内容の講座を学習し、生活をより楽しく、より豊かなものにすることに資することができました。今年度新たに趣味の講座を短期に開催し、生涯学習のきっかけづくりを提供することができました。囲碁将棋大会、かるた大会においては、市民が楽しく集い、有意義な生涯学習の場とすることができました。文化祭においては、文化的素養の向上と自己研鑽に励んでいる生涯学習課、各自主学習教室の皆様の発表の場として、日頃の学習の成果を広く市民の皆様へ発表し、活力に満ちた生涯学習のまちづくり推進に役立ちました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続 生涯学習の拠点として、機能充実を図り、継続します。男女問わず幅広い年齢層の方に参加いただける講座や行事を実施していきたい。生涯学習課及び公民館年間の受講者数7万人に到達を目標とします。</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

生涯学習センターの管理運営	生涯学習センターの管理運営に必要な消耗品及び電信電話料の支出しました。	支出の削減を念頭に、適切に管理運営を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 生涯学習センターの管理運営に必要ですので継続します。	II - 9
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
公民館運営審議会委員の活動	各公民館の年間の事業実施計画と事業報告について審議いただいた結果、公民館事業に関する貴重な意見をいただきました。また、公民館評価導入、平成27年度からの館長候補者を2公民館から推薦いただきました。年間2回開催(5公民館)年間3回開催(4公民館)	公民館活動が地域住民と行政との緊密な連携のもとに進められています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 公民館の地域の拠点としての役割を充実・発展させるため、必要ですので継続します。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
公民館の管理運営	公民館が機能を充分発揮できるよう、消防設備保守点検、保安警備、自家用電気工作物保安業務、エレベーター保守点検、冷暖房設備切替保守点検、清掃業務等保守管理業務等を業者に委託することで円滑な設備等の維持が図られました。	各種保守点検等を業者へ委託することにより、施設の維持管理が適切に行われています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 施設及び設備の維持に必要なので継続します。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
放課後地域子ども教室推進事業	市内小学校児童を対象に、地区の指導者の特技を活かした教室を、放課後に公民館で開催しました。また、小学生を対象に休日にふれあい交流や、軽スポーツなどの教室を開催しました。	各公民館を活動拠点として、放課後や休日の子どもの安全な居場所づくりができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 放課後子ども教室は児童クラブに統合されたため、地域子ども教室として今後も充実を図ります。	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
各公民館生涯学習推進事業の実施	高齢者学級、女性学級等を開催するとともに、各種自主学習教室の運営を支援し、地域住民の生涯学習を推進しました。また、地区の祭、地域における防災教育、スポーツ大会、環境美化啓発活動等の事業を地域住民とともに開催し、地域づくりを推進しました。	全館民間館長の運営のもと、地域住民と力を合わせ、身近な学習の場及び地域づくりの場を提供することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 より地域に密着した公民館としての機能を実現することが必要ですので継続します。これまで、あまり公民館を利用したことのない方にも利用していただけるような行事を検討します。	II - 9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

<p>老朽化した公民館の改修のための工事</p>	<p>西公民館において暖房用ボイラー取替工事、南公民館において屋上防水改修工事、愛発公民館において体育館トイレを様式化する改修工事を、それぞれ行いました。</p>	<p>使用者への利便性を向上することができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>②完了 改修工事が終了したため、事業は完了しますが、老朽化している公民館があるので、今後予算等に応じて改修を検討します。</p>	
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
<p>地域コミュニティモデル推進の実施</p>	<p>地域コミュニティモデル地区に対し、交付金を交付し、住民の自主的な地域コミュニティ活動を支援しました。</p>	<p>住民主導で、地域活性化、世代間交流、防災等の事業を通して、地域振興を図るため、事業に取り組む粟野コミュニティ運営協議会に対し、交付金を交付しました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続 住民による地域振興を今後も推進するために必要ですので、継続します。 今後は、交付体系の見直し等も含め、他地区も活用しやすい交付金として検討します。</p>	<p>II-9</p>
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

○図書館

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類									
図書館業務	図書館業務は、通常10時開館のところ、5月から9月までの期間に限り開館時間を30分早めて、9時30分の開館とし利用者の利便性を図りました。	スムーズなリニューアルを実施し、新図書システムの移行を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	Ⅱ-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書館の管理運営	館内各設備機器（消防設備等・エレベーター設備・電気工作物の保安設備・冷暖房設備等）の確実な動作と安全のため、保守管理業務を委託しました。 新図書システムに移行して利用者の利便性を図る円滑な運営を行いました。	館内各設備機器のシステム等の確実な動作と安全のため、保守管理を行い、施設等修繕を実施いたしました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	Ⅱ-1
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書の購入	図書館として、市民が気軽に利用できるよう、要望に応えながら蔵書を整備し、市民サービスの向上に努めました。 書店組合からの見計らい本及びブックチャラバンにより児童書・一般書の蔵書を選書しました。 今年度の購入冊数は5,241冊、年間予約数は15,700件となっています。	市民の学習・情報発信の拠点として蔵書の充実を図り、利用者の要望に迅速に対応することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	②拡大	Ⅱ-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
ブックスタート事業	7ヶ月の乳児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせを行い、絵本とバッグ（ブックスタート・バッグ）を手渡し、乳児期から親子で本にふれあうことの大切さを啓発しました。 毎月3カ所（図書館・子育て総合支援センター・粟野子育て支援センター）で実施しました。 対象者数560名のうち429名の参加（参加率76.6%）となっています。	乳児とその保護者が向き合い、心ふれあうひとときをもつことができました。 いっしょに絵本を開く時間の楽しさを体験し、家庭においても絵本をとおしてふれあう時間をもつ、契機となりました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	①継続	Ⅱ-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
情報システム整備事業	ICタグ方式の図書館システムに係る機器等の借り上げ及び保守管理業務の委託を実施し、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図りました。また新図書システムへの移行をスムーズに実施いたしました。	IC機器を活用した図書館システムにより、利用者の利便性の向上、プライバシー保護及び図書館業務の、より一層の迅速化に努めました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	Ⅱ-1
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書利用推進事業	学校図書館・各保育園等へ図書を配架し、図書の利用を推進したことにより、学校図書館等での図書利用を推進し、児童・生徒の読書活動を推進いたしました。	学校図書館・各保育園等へ毎月図書を配架することにより、図書の利用推進を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	Ⅱ-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
視聴覚ライブラリー	設備が充実した視聴覚コーナーでの、サービスの提供と利用者の拡大を図るため、視聴覚資料の充実と機器等の保守管理業務を実施いたしました。 また、視聴覚コーナーの機器を、休校施設のパソコンを利用し、スムーズなリニューアルを実施いたしました。	視聴覚コーナーでの利用者サービスを迅速に進め、利用者の拡大に努めました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	Ⅱ-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

○プラザ萬象

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
施設管理運営のための業務の委託及び施設の活用のための管理運営	各種業務を委託するとともに、施設維持に必要な光熱水費、修繕費、電信電話料、消耗品等を確保し、小規模修理必要箇所を修繕し、貸館として施設の維持管理を行います。	<p>各設備を正常に使用することができました。</p> <p>また、全ての舞台運営について、滞りなく完了することができ、安全で快適な館利用につながりました。</p> <table border="1" data-bbox="1061 405 1201 607"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続施設の維持管理と舞台運営を確実にを行うために、継続します。</p>	II - 9
有効性	A											
効果性	A											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
老朽化した施設等の改修のための工事	会議室2, 3, 4エアコン取替工事及び小ホール等屋上防水の改修をしました。	<p>改修により、施設の維持が適切に行われました。</p> <table border="1" data-bbox="1061 701 1201 902"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>②継続老朽化による施設改修を、確実にを行うため、継続します。</p>	II - 9
有効性	A											
効果性	A											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											



○少年愛護センター

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
青少年 補導活動	総勢97名の補導員が、2人1組で延べ673回、市内の量販店などの補導巡視を行い、帰宅指導、校則順守などの声かけを、延べ975人に行いました。	青少年への声かけにより、地域の人に見守られているという意識付けを行い、豊かな心の醸成につながりました。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	Ⅱ-9
実現度	A												
効果度	B												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												
相談活動	「家庭教育相談」と「青少年の悩み相談」を中心に相談活動を行いました。 28年度の相談件数は98件で、相談傾向としては、児童生徒に関しては、性格・行動など、一般青少年からの人生問題などが多く寄せられました。 また、少年愛護センターの家庭教育相談員は、年間51回小中学校を訪問し、教職員に対し、児童生徒の生活指導に関するアドバイスをを行いました。	相談に共感的に対応することにより、相談者が心の安定を取り戻し前向きに考えていけるよう導くことができるとともに、家庭教育の知識向上に役立ちました。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	A	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	Ⅱ-9
実現度	A												
効果度	A												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												
青少年健全育成推進事業	少年愛護センターは青少年健全育成敦賀市民会議と連携して、地域の子どもは地域ですこやかに育てようをスローガンに各種青少年健全育成行事を実施しました。 ・5月15日親子のフェスティバルを開催し、約20,000人の参加を得ました。 ・6月11日青少年育成敦賀市民大会を開催し、約700人の参加を得ました。 ・「青少年からのメッセージ・青少年へのメッセージ」作文、図画・ポスターの募集を行い、6834通の応募があり、優秀作品を表彰しました。 ・小学生4～6年生を対象とした「ひまわり塾」を7月～10月に計4回開催し、延107名の参加を得、郷土の食材作りの体験学習と施設見学による社会学習によって見識を深めました。 ・青少年育成推進員及び一般市民を対象に子どもの安全を守ることをテーマとした講演会形式の研修を実施し、65名の参加を得ました。	各種行事の開催や広報活動により、親子、仲間、地域とのふれあいの場を提供するとともに、市民に明るい環境づくりを訴え、地域住民の積極的な協力により地域の子ども達を守り育てる意識の高揚に寄与しました。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	Ⅱ-9
実現度	A												
効果度	B												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												

○少年自然の家

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
少年自然の家のふれあいフェスタ事業	<p>年2回の主催事業を通して、参加した子供たちが自然の中で学び、自然の中で体験させる。その活動の中で一人一人の自主性を引き出し、責任を持って行動ができるよう指導を実施した。</p> <p>活動内容は野外が多く天候に左右されやすいことから参加者の安全に十分配慮し、臨機応変に内容を変更し事業に取り組んだ。</p> <p>また、事業毎に参加者にアンケート調査を実施しており、それらの回答結果を今後の参考に取り入れている。</p>	<p>参加者につきましては、開催時期で参加者の変動があったが、中には何回も参加する子どもがいる等人気度は高く、かつ、アンケート結果から満足度も高かった。</p> <p>引き続き、参加者が興味を引くような内容を今後も心がけていく。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table> <p>①継続</p>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	II - 9
有効性	A											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
少年自然の家の管理運営	<p>利用者が安全かつ安心して利用できるよう、各種保守点検・維持管理業務を業者に委託し、修繕箇所の補修に努めた。</p>	<p>建設して40年近く経ち、躯体施設の劣化も見られることから、目視点検等特にパトロールを強化し、危険箇所の早期発見に努め、施設の長寿命化及び安心安全を図った。</p> <p>また、修繕費の嵩むものにつきましては、計画的に実施し、毎年の修繕費の平準化を図った。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table> <p>①継続</p>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	II - 9
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

## 文化振興課自己点検・評価報告書（まとめ）

文化振興課では「文化財の保護」と「文化の振興」を大きな二本柱として事業を行っています。

文化財保護事業では、文化財の保存と活用を一体的に捉え、より効率的な保護の実現を目指しています。そのために、文化財を地域の貴重な資産として適切な状態で保存するための措置を講じています。同時に、多くの市民に対して文化財の持つ魅力を発信し、活用を図るため、現在は文化財の修復整備を重点的に進めています。

文化振興事業では、民間の文化団体の活動を支援することで、市民自らが主体的に市民文化を創造する活動の支援を図っています。文化芸術及び科学技術分野で全国大会等に出場した個人及び団体を激励するとともに、全国又は世界大会で優秀な成績を収めた場合には、表彰し、活動を奨励しています。

### 1 文化財保護事業

新たに国指定文化財に2件、市指定文化財に2件が指定されました。平成28年度末現在の指定・登録件数は207件で目標値には至っていません。

28年度中に国の登録有形文化財（建造物）に、立石岬灯台及び同囲障を新たに登録するよう国の文化審議会から文部科学大臣に既に答申されています。また、市指定候補文化財2件について調査や審議は完了しており、29年度中に新たに指定される見込みになっていますので、平成29年度中には登録・指定件数の目標値を達成する見込みです。

次年度も計画的に必要な調査を実施し、1年度に1～2件程度をめどに新たに市指定文化財に指定し、地域の宝である文化財の一層の保存活用を図ります。

#### （1）埋蔵文化財発掘調査

迅速かつ的確に市内の開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査を行い、小谷ヶ洞古墳群出土金属製品5点の化学的な保存処理を施しました。

また、北陸新幹線建設工事に関連する埋蔵文化財保護業務については、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターをはじめ関係機関等と協議しながら、事務を進めました。

今後も開発事業に伴う埋蔵文化財保護業務を的確に行うとともに、事業成果を文化財指定や整備に結び付けられるよう努めます。

#### （2）柴田氏庭園保存修理事業

柴田氏庭園保存修理事業は27年度から国庫補助を受け整備に着手しまし

た。28年度は建造物の修理に着手するとともに、特別見学会を開催するなど、修理期間中の公開にも努めました。今後も、柴田氏庭園保全整備委員会等の指導を受けながら、調査と併行しながら整備事業を進めていきます。

### **(3) 氣比神宮大鳥居保存修理事業費補助金**

今年度から、国の重要文化財（建造物）に指定されている氣比神宮大鳥居の保存修理事業を進めている所有者に対して、国・県とともに補助を行っています。平成29年度まで修理工事を予定しており、次年度も引き続き、円滑な事業の遂行を支援していきます。

## **2 文化振興事業**

文化行事参加者数は29,463人となりましたが、目標値の達成には至りませんでした。29年度以降は目標値を達成できるように、事業者の広報活動を支援するなど、行事参加者数の増加を図り、市民文化の裾野の拡大に努めます。

### **(1) 文化活動団体等の支援(氣比史学会、文化協会、水戸烈士遺徳顕彰会等)**

文化芸術活動を行う団体等の活動を支援するため、事業者に対し補助を行いました。民間団体の自主的な活動により、市単独で事業を実施する以上に、多様な文化行事を実施することができました。今後は、広報支援の強化等に努め、来場者数の増加を図ります。

氣比史学会事業は受講者数が27年度よりも増加しました。28年度の市民歴史講座では、市立博物館事業との連携事業も実施されるなど、長年にわたる同会の事業の蓄積や、幅広い市民の関心に応えた事業が実施された結果と考えています。

文化芸術及び科学技術部門で全国大会等に出場した3団体4名に出場激励費を交付しました。また、3月には全国大会等で優秀な成績を収めた個人及び団体を表彰しました。

### **(2) おくのほそ道全国俳句大会事業**

平成27年度に引き続き、「奥の細道つるが芭蕉紀行全国俳句大会」を主催する民間の俳句作家で構成される団体を支援しました。

事前投句には延べ197人、当日は76人の投句がありました。今年度は小学生から投句を募集し、1,664人から1,894句が応募されました。今後も「芭蕉杖措きの地」として、俳句が市民に親しまれるように、事業運営の支援に努めます。

## 28年度市民文化センター自己点検・評価報告書（まとめ）

### 年間利用者について

利用総件数は457件で31,179人の利用者がありました。

前年度比では、113件、3,228人と共に増加しました。

増加の原因の主なものとして、昨年度、6月・9月以降毎週及び月3回利用の団体が新たに加わったことと考えられます。

### 施設の保守管理について

施設の管理運営では、舞台設備、消防設備の修繕等で施設修繕料の支出を行いましたが、円滑な管理運営により予算の範囲内で適正に執行されました。

### 敦賀市の補助事業団体について

敦賀市文芸協会は、全5事業を開催し、1,894入場者がありました。

全体では、概ね入場者の反応は良く満足のいく催事内容でしたが、一部の事業では、実行委員会の懸命な努力にもかかわらず、予定集客数が伸びず苦戦をしました。

この結果を踏まえ、次年度は若年層の集客の増加を目指し、市民のニーズにあった事業を文芸協会が実施できるように支援することで、市民が文化芸術に親しむ機会を増やし、文化振興の発展に努めていきます。

### 今後の方針について

市民文化センターでは、今後も市民の方が文化に身近に接することができるように円滑に施設を運用し、市民の芸術文化の向上に資することのできる拠点施設となるよう、努力いたします。

## 博物館 自己点検・評価報告書（まとめ）

27年度はリニューアルオープンとそれに関連する事業等があったため、28年度は博物館としては最初の通常運転の年といえます。

特別展はNHKの大河ドラマに連動して「大谷吉継と西軍の関ヶ原」を開催し、市の観光部局だけでなく、長浜市長浜城歴史博物館と協力し、広報等行って、会期中3,015人の入館者がありました。また市内の市民歴史研究グループ・氣比史学会と共催で実施した記念講演会(きらめきみなと館小ホール)は市内外から200人の参加者がありました。

建物が「旧大和田銀行本店本館」として重要文化財に指定され、これを受けて記念展示等実施しましたが、お祭り騒ぎに走ることなく、時間をかけて市民の理解を深め、浸透を図っていくための広報を継続したい。

今後は、資料整理や調査研究等を進め、歴史博物館として展示内容や教育普及の充実を図っていく必要があります。しかし学芸員に時間が不足しており、本来実施すべきことも出来ていない現状で、現実的には難しいと言わざるをえません。

## みなとつるが山車会館 自己点検・評価報告書（まとめ）

郷土の誇る文化遺産である山車の保存を図り、館の維持管理及び運営業務を行いました。当館は開館から19年が経過し、経年劣化等により必要となった各種機器の部品交換や外壁の修繕を行い、来館者が利用しやすい環境作りに取り組みました。

また、山車会館への更なる集客を図るために、昨年度から放映されたNHKの大河ドラマ「真田丸」に登場する敦賀城主である「大谷吉継」の展示コーナーを、博物館と連携しリニューアルしました。さらに、隣接する博物館が開催する「吉継カフェ」と連携した取り組みを行うことで県内外から入館者がありました。

さらに、毎月第3日曜日に開催される「清明の朝市」では、当館も含めて博物館通りの各施設が入館料を無料にしていることや、「敦賀まつり」期間中も併せて無料にするなど観光客等の誘致に取り組んだ結果、今年度は、昨年度の入館者数11,948人より353人少ない11,595人（2.96%減）でした。しかし、入館料については昨年度より32.63%増の1,592,600円となり、開館以来最も高い数値となりました。

当館の情報発信についての取り組みとして、ソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブックなど）やホームページを利用した情報発信に努めました。ホームページではトピックスとして最新情報をアップし、ソーシャルメディアの発信を週1回目途にアップするなど、極め細やかに当館の活動状況をはじめ当館周辺の博物館通りの情報提供に努めました。北陸新幹線などを利用して来られる来館者が、敦賀市をはじめ福井県内、或いは北陸、関西、日本海側に訪れることを意識した情報発信を行っていきます。

文化振興課

【文化振興課の事務分掌】

- (1) 文化関係施設の設置及び管理に関すること。
- (2) 文化財保護審議会に関すること。
- (3) 芸術文化の振興に関すること。
- (4) 文化団体の育成及び指導に関すること。
- (5) 文化財の調査、保存及び活用に関すること。
- (6) 埋蔵文化財の調査及び発掘に関すること。
- (7) 市史編さんに関すること。
- (8) 博物館に関すること。
- (9) 市民文化センターに関すること。
- (10) みなとつるが山車会館に関すること。
- (11) その他文化振興及び文化財に関すること。

【自己点検・評価】

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
文化財保護審議会の活動	文化財の調査、保存、指定等について審議するため、文化財保護審議会を開催した。5月24日、1月21日、2月8日、3月22日の4回開催。 市指定文化財の指定及び所要の維持管理について、専門的見地から指導及び助言を得た。	資料そのものの学術的価値等に即して、指定の是非、種別等を厳正に審議されている。また、指定等の措置を講じられた文化財を保存するための助言指導も行われている。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	A	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	①継続 I - 14
実現度	A											
効果度	A											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
気比史学会の支援	市民を対象とした歴史講座4講座を開催するために補助を行った。講座は7/16、8/20、10/8、11/5に開催され、延べ378名が受講した。	歴史に立脚した市民文化を構築するため、テーマを工夫して定め、幅広い市民が郷土史への関心を持ち、受講するよう努められている。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	①継続 II - 9
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
文化団体等の支援	年間を通し各種の文化事業を開催し、芸術文化の推進を図る団体に助成した。助成団体が、「新たな文化の絆をめざして」のスローガンのもと、各種文化事業を開催した。市・教育委員会共催事業5事業、後援事業7事業に10,494名が参加した。	前年度に比べ参加者人数が減少しているが、参加者増への取組とともに、文化意識の高揚のために、育成という観点から継続的な支援も必要である。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	①継続 II - 9
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
水戸烈士遺徳顕彰会の支援	水戸市との親善交流を図るとともに、史跡を保護し、郷土の文化遺産を継承する団体を助成した。姉妹都市親善友好少年交歓研修生派遣(8/5~7)及び受入(3/25~27)協力や、水戸烈士遺徳顕彰行事開催などの活動や水戸烈士記念館の管理を支援した。	遺徳顕彰会の清掃奉仕活動により、武田耕雲斎墓地等の環境が保たれた。また、姉妹都市との良好な関係が長期にわたり保たれている。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	①継続 II - 11
実現度	A											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
夷子大黒綱引の支援	国指定重要無形民俗文化財の敦賀西町の綱引き(夷子大黒の綱引)の実施と、事業伝承を目的とした補助金であるが、今年度は中止になったため、補助していない。綱引きの再開にむけて、保存会、地元、国・県の文化財保護部局等と繰り返し協議を行った。	平成28年度に事業を開催することはできなかったが、次年度以降の再開にむけて、関係団体等と協議を進めることができた。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>C</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	C	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	①継続 II - 11
実現度	B											
効果度	C											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											



山車保存会の支援	敦賀まつりの山車巡行の継続と、地域資源としての活用を図るために、山車とその装飾品を修理保全するために、保存団体を補助した。昨年度に引き続き、金ヶ辻子山車の胴幕修理（新調）を行い、金ヶ辻子山車の胴幕修理を完了した。	9月の山車巡業が支障なく実施されるよう、山車保存会及び山車の所有者である各区と十分に意思疎通を行いながら、必要な修理の実施を支援していく。	実現度 B 効果度 B 効率度 (コスト) B 効率度 (人員) B	①継続	II - 11
無形文化財保存の支援	貴重な伝承行事等の保存継承を図るとともに、後継者の育成を行う団体に助成した。阿曾相撲甚句保存会等7行事7団体に補助した。	地域によって継承に苦勞しているところも見受けられるが、全体的に見て行事伝承はされている。	実現度 B 効果度 B 効率度 (コスト) B 効率度 (人員) B	①継続	II - 11
私立敦賀郷土博物館の支援	私立敦賀郷土博物館に所蔵されている指定文化財等の管理保存のため、同施設に補助した。刀剣類の手入れ、防虫薬の補給及び清掃、展示品の整理清掃等及び施設防火点検の実施により、文化財の良好かつ安全な保存が図られている。	補助を継続することで、良好な事業が行われ、貴重な文化財の保護が実現されている。	実現度 B 効果度 B 効率度 (コスト) B 効率度 (人員) B	①継続	II - 11
文化振興事業	芸術文化の振興を図るため、各種文化事業を実施する。市民ギャラリーの開催(年12回展示替え) 文化芸術活動激励費(3団体・4人)、文化芸術及び科学技術活動優秀表彰式(3/16)	地元作家の作品だけでなく敦賀の文化に触れる機会を設けることに寄与した。文化芸術部門で活躍する市民を表彰し、活動を奨励した。	実現度 A 効果度 B 効率度 (コスト) A 効率度 (人員) A	①継続	II - 16
つるが芭蕉紀行開催事業	「杖措きの地 敦賀」を内外にアピールし、俳句を通じた文化交流を図るため、全国俳句大会の開催を補助した。10月2日に開催し、事前投句に延べ197人から630句が投句された。当日は76人152句、小学生1,664人1894句が投句された。	敦賀俳句作家協会が同好者のネットワークを活かして投句及び参加をよびかけるとともに、市内小学生から作品を募集した。	実現度 B 効果度 B 効率度 (コスト) B 効率度 (人員) B	①継続	II - 16
文化財発掘調査	開発に伴う遺跡等の損壊を防ぐための試掘調査を行うとともに、出土品等の記録・保存処理等を行い、学校教育及び生涯学習等への活用を図る。市内の開発行為に伴う埋蔵文化財の確認調査に対応した。また、出土品に保存処理を施し劣化対策を図るとともに、出土資料の整理・記録を進めた。	宅地造成等市内の開発工事については、遺構を損壊することなく、かつ事業主に大きな影響を及ぼすことなく対応が出来ている。	実現度 A 効果度 A 効率度 (コスト) B 効率度 (人員) B	①継続	II - 11
柴田氏庭園保存修理事業	柴田氏庭園保全整備委員会を開催し、委員会及び国(文化庁)の指導を受けながら、柴田氏庭園の保全整備を行った。建物の修復に向けた解体調査を行うとともに、専門機関の設計監理のもと庭園の美観を整えるように剪定した。また、柴田氏庭園保全整備委員会を10月13日、12月20日、2月21日の計3回開催した。	委員会で学識経験者と地域の代表者がともに検討し、修復整備事業が着実に進んでいる。	実現度 A 効果度 A 効率度 (コスト) B 効率度 (人員) B	①継続	II - 1 II - 11
氣比神宮大鳥居保存修理事業費補助金	国の重要文化財に指定されている氣比神宮大鳥居の保存修理事業費を補助する。事業期間：平成28年9月～平成29年12月(予定)	修復工事は確実に進んでおり、適正な事業の執行を引き続き支援する。	実現度 A 効果度 A 効率度 (コスト) A 効率度 (人員) B	①継続	II - 11

文化財保護管理費	国、県、市指定の文化財等を良好な状態で保つため、清掃、補修、修繕等の維持管理を行った 木の芽古道、深坂古道をはじめ市内の主要な史跡等の清掃委託及び柴田氏庭園の植栽管理（雪吊り）等を行った。	修復事業を終え公開が始まった文化財の管理も含めて、継続して実施できている。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	A	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 11
実現度	A												
効果度	A												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												
史跡金ヶ崎城跡保存活用計画策定事業費	国指定史跡金ヶ崎城跡の保存活用計画の策定委員会を開催した。学識経験者及び地元住民計10名を委員に委嘱し、6月23日、12月26日、3月23日の計3回委員会を開催した。全体の地形測量と、植生の調査を行った。	委員会を組織し、現状と課題を把握し、次年度の計画策定の基礎資料を得ることができた。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	A	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 11
実現度	A												
効果度	A												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												
その他諸経費	文化振興課分室の維持管理や、経常的業務に必要な事業を行った。分室での整理作業：柴田氏庭園・市内試掘調査出土品洗浄・注記・接合・実測・復元 分室での普及事業 1. 関西文化の日関連事業「つるがみなとに入った舟は」特別展示の開催(11月5～12日：来場者数70名) 2. 市内小学校校外学習受け入れ(小学校3、中学校1：約120名)	分室における整理作業は着実に行われている。校外学習や展示の際に遺物の公開・活用も滞りなく行われている。	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	A	効率度 (コスト)	A	効率度 (人員)	A	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 11
実現度	A												
効果度	A												
効率度 (コスト)	A												
効率度 (人員)	A												

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
市民文化センター管理運営	<p>施設の利用状況は、利用総件数で 457 件 31,179 人の利用者があった。前年度比では、113 件、3,228 人の微増となった。管理運営では、舞台設備、消防設備等の修繕及び清掃業務、冷暖房保守点検等の施設維持管理の委託業務を実施した。</p>	<p>毎年ホール利用の団体数、人数はさほど変わらず、微増の原因の主なものとして、昨年度、6月・9月以降毎週及び月3回利用の団体が新たに加わったことで、その分が平年度数字にプラスされ、本年はその分が微増となったものと考えられます。</p> <p>管理運営では、限られた予算の中で事業を遂行した結果、快適な施設環境を利用者に提供できた。</p>	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	II - 1 II - 9
実現度	B												
効果度	B												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												
文芸協会事業	<p>市民の文化・芸能の向上を図るため、敦賀市文芸協会が実施する事業に補助金を交付した。多様な市民のニーズにあった公演5事業を開催した。</p> <p>5事業のうち3事業が日本伝統芸能の演物を行った。</p> <p>入場者数は、1,894人と昨年を下回った。</p>	<p>5事業の開催で、1,894人の入場者を確保できたが、目標であった2,000人を超えることができなかったが、事業内容については、日本伝統芸能の公演は難しい懸念もあったが、公演の中で解説や観客とひとつになる場面があり、公演後も気さくに話するなど評判も良く盛況に終了出来た。概ね満足のいく結果であった。</p>	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	①継続	II - 16
実現度	B												
効果度	B												
効率度 (コスト)	B												
効率度 (人員)	B												

○博物館

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
博物館協議会委員の活動	協議会を3回開催し、博物館の諸活動に対し、市民や有識者の立場からの意見を聞くことができた。	博物館の運営・活動に対して、前向きな評価やご意見をいただいている。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II - 9
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
調査研究	館蔵資料や問い合わせ対応にかかる調査、市内民俗行事などの調査等。外部研究機関の民具資料調査の受け入れ。研究紀要の発刊。	職員の補充がなかったため、資料整理が出来なかった。今後の質の高い博物館活動のためにも、資料の整理・データ化は必要。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>C</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	C	③拡大 II - 9
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	A											
効率性(人員)	C											
展示会の開催	特別展「大谷吉継と西軍の関ヶ原」、吉継カフェ等を実施。 入館者 14,040 人 館外行事等参加者 2,406 人 合計 16,446 人	人員不足による限界から、新たなテーマの発掘、掘り下げ、新規の企画が難しい。また広報を拡充すべきとは思いますが、負担増で調査研究教育普及展示を縮小するのは本末転倒。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>C</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	C	③拡大 II - 9
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	A											
効率性(人員)	C											
博物館管理運営	清掃、空調、消防、エレベータ機器点検等業務委託にて実施した。	管理は適正に進めているが、管理計画の策定は必要。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II - 1
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
館蔵資料デジタルアーカイブ	これまでに引き続き、絵葉書や古文書等のデータ化を進め、アーカイブの充実を図った。取り込みデータ(カット)数 600カット	データ化する資料の幅を広げることができた。システムの更新について、検討を進めることができなかった。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>C</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	C	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II - 16
有効性	B											
効果性	C											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

○みなとつるが山車会館

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類	
施設保守管理	会館施設の清掃、警備、各機器点検等を実施し、安全性と快適性を確保できた。	各種機器の部品交換を行い、点検により見つかった修繕箇所は順次修繕を実施し、安全性、快適性が保たれた。	有効性	A	③拡大	Ⅱ - 1 Ⅱ - 11
	効果性		B			
	効率性 (コスト)		B			
	効率性 (人員)		B			
運営業務	館内環境の維持のために必要な管理業務を行った。NHK 大河ドラマ「真田丸」及び博物館特別展に呼応し、別館「大谷吉継コーナー」の展示リニューアルを行い、ソーシャルメディア等を活用した情報発信に努め集客を図った。入館料は前年に比較し増収となった。(来館者数 11,595 人)	来館者数は、清明の朝市の開催回数減等により微減となったが、ニーズに合わせた来館者サービスを実施し入館料は 32.63% 増加した。	有効性	A	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 11
	効果性		B			
	効率性 (コスト)		B			
	効率性 (人員)		B			

## スポーツ振興について

市民一人ひとりが、身体的、精神的、環境的に多様化する日常の中で、いかに明るく豊かで活力のある生活を送ることができるかを念頭に置き、各種スポーツ関連団体の育成・指導に力を注いで参りました。

スポーツは、競い合うこともさることながら、生涯に亘って自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努めなければならないことを自省する上でもとても意義のある方法であり、地域再生や医療費削減の手法として、非常に重いウエイトを担う位置づけとなってきております。

元気な高齢者と反して、バーチャル環境に身をおき、体力低下や生活環境の悪化に苦しむ子ども達には様々な機会の提供が必要不可欠であり、その先駆けの取り組みができたと考えております。

また今年度は、平成30年開催の福井しあわせ元気国体に向け、大会時に代表になりうる中学生以上を対象に選手等育成事業を実施し、15競技の強化を図りました。今後も国体開催まで引き続き計画的に推進して参ります。

これらのスポーツ振興事業と平行しながら、スポーツを学び、スポーツで学ぶことのできる環境の整備を進めるとともに、市民総スポーツ実現のため、普及・振興を図り、人を育み、文化を創る都市づくりを目指します。

## スポーツ施設について（運動公園を除く）

市内には16の体育施設があり、平成28年度の総利用人数は168,800人（前年度172,937人）でした。第6次総合計画では平成28年度の目標年次に200,000人という目標値をかかげており、目標値からは約3万人下回りましたが、前年度比で約4千1百人の減少となり、目標達成にむけて鋭意努力を行っております。

減少した理由として、市立体育館において、天井からの落下物が発見され、早急に安全点検と危険防止の対策が必要となり、天井落下物防止対策の工事（平成28年5月20日から6月30日）を約1カ月半実施し休館となったことが大きいと考えます。

現在、ほとんどの施設で受付や清掃等を委託しており、目標到達に向け、今後は更に利用者に対する接遇の向上や安全で安心して利用できるスポーツ施設を心がけて参ります。

指定管理者制度導入につきましては、平成18年度に「きらめきスタジアム」で導入いたしましたが、平成27年度で指定管理期間が満了したため、敦賀市黒河農村ふれあい会館等指定管理者候補者選定委員会において、新たに平成28年度から5年間の指定管理者として、引き続き敦賀市ソフトボール協会が選定されました。また、平成20年度からは「武道館」も指定管理者制度を導入し、平成25年度から5年間の指定管理者として、敦賀市シルバー人材センターが選定されております。両指定管理者とともに、受付から許可書の発行などスピーディな事務の実施を行うなど、市民サービスの向上と人

件費等の経費削減を図りました。

施設の主な改修関係では、市立体育館天井落下物防止対策工事、栗野スポーツセンター東・南面防水改修工事、中郷体育館器具庫屋上防水改修工事を行い施設の整備促進を図り、老朽化が著しい個所や設備については適宜修繕を行いました。

しかし、これらのスポーツ施設を含め、効果的な施設の運営を実施するためには、一般利用者はもとより体育協会、学校関係者や地域の各種団体との連絡調整が重要となっています。

### 総合運動公園について

市民の憩いの場として親しまれている総合運動公園は、市民だけでなく県内外から年間225,621人（前年度243,955人）の利用者がありましたが、第6次総合計画では平成28年度の目標年次に240,000人という目標値をかかげており、約1万4千人下回り、目標を達成することができませんでした。施設の改修や修繕により（体育館メインアリーナ床面改修工事、体育館音響設備修繕、野球場スコアボード判定表示灯改修工事、等）利用できない期間もあり、併せて、大会の減少等が主な原因と考えます。今後は更に自然の美しさ、豊かさを提供し、快適で、安全、安心な施設として利用できるように努力して参ります。

28年度については、例年と同様に施設の老朽化により修繕等が頻発し、予算を上回る結果となりました。主な修繕・工事としては、ローラー滑り台ローラー交換修繕、陸上競技場円盤・ハンマー投用囲い修繕、弓道場汚水ポンプ取替修繕、野球場時計修繕等を実施しました。毎年のように各施設の経年劣化による老朽化が進み、修繕が増える傾向にありますが、予算の削減に努めるため、職員による作業等で対応することも多くなっています。また、プールにおいても、ろ過機洗浄排水弁取替修繕、25mプール用三方弁交換修繕、プール更衣ロッカー鍵等取替修繕、空調自動制御装置修繕、可動床装置部品交換修繕、プール自動ドア修繕等、劣化により設備の故障、修繕が続いています。

また、平成30年の福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の開催に向けて、大会の運営等が円滑に行われるよう、各施設や備品等の整備も行いました。

このような状況を踏まえ、今後も、運動公園施設の老朽化に伴う改築コストの平準化など計画的な整備計画を行うため、運動公園の長寿命化計画を基に、運動の拠点として、地域住民が生涯にわたり各種のスポーツ活動を主体的、継続的に実施できるようより一層の施設環境の整備、充実を図り、安全、安心な施設づくりを目指します。

ス ポ ー ツ 振 興 課

【スポーツ振興課の事務分掌】

- (1) スポーツ振興審議会に関すること。
- (2) スポーツ推進委員に関すること。
- (3) スポーツ施設の設置・管理・貸与及び廃止に関すること。
- (4) 社会体育並びにレクリエーションに関すること。
- (5) 市民の体位の向上・スポーツの推進に関すること。
- (6) 体育団体の指導育成に関すること。
- (7) 総合運動公園の管理運営に関すること。
- (8) 武道館の管理運営に関すること。
- (9) その他社会体育に関すること。

【自己点検・評価】

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
ス ポ ー ツ 振 興 審 議 会 の 活 動	スポーツ基本法第31条の規定に基づき、敦賀市スポーツ振興審議会を設置、施設の整備や事業、競技力向上など、スポーツの振興に関する事項について調査審議し、スポーツ振興に寄与しました。 年2回開催 延べ13名出席	スポーツの振興に関する重要事項等について、中立公正な立場から調査、審議及びその決定を行っています。	①継続	Ⅱ - 10
総 合 型 地 域 ス ポ ー ツ 活 動 推 進 事 業	本市で唯一設立されている敦賀北スポーツクラブを支援し、活動の充実を図るとともに、テニス、水泳、軟式野球等競技協会と調整を図り教室等を開催しました。 ・一般・中高年向けスポーツ教室の開催・イベントの開催(計5種目、16教室) ・ニュースポーツ普及のための各種教室・行事の開催 ・総合型地域スポーツクラブ等(3団体)の育成・支援	スポーツ教室には募集定員を超えるものもあり、市民の健康への意識の高さが窺われます。また、北スポーツクラブは積極的に市の事業に協力・参加いただいております。	①継続	Ⅱ - 10
敦 賀 マ ラ ソ ン 大 会 開 催	商店街等の市街地コースを走破し、市民の声援を背に楽しく走る大会として、周辺住民、警察等交通規制の関係団体と協働し、更なるマラソン競技の普及と市民の健康増進を図りました。 ○平成28年10月16日 3,835人 (前年度3,880人)	市街地コースとなり、協力団体・地域住民の協力の下、市民マラソンとして定着。更なるマラソン競技の普及と市民の健康増進を図ると共に、地域住民諸関係団体との連絡を密に開催しました。	⑥中止	Ⅱ - 10
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 の 活 動	地域でのスポーツ活動やニュースポーツの普及・振興をはじめ、スポーツ教室の指導、各種大会の運営補助等を行いました。また、指導者を対象とした実技等の研修会に参加し、指導面と技術向上に努めました。 ・ニュースポーツ教室(クラウン・ゴルフ、ショートテニス、スティックリング、ピッチボール、ファミリーバドミントン)における実技指導と普及振興 ・出前講座、体験教室等の指導者派遣(ディスクガッター、キボール、加リング外) ・ニュースポーツ体験王国(平成28年7月17日開催) ・市主催大会への運営補助 マラソン大会、野坂山市民登山、スティックリング大会 ・全国研修会(福井県鯖江市)、北陸研修会(新潟県上越市)、県研修会外への参加	指導者のスキルアップを目的とした実技研修の実施と他市町村との情報交換、技術交流を図るため各種大会に参加しました。また、ニュースポーツ普及のための出前講座や教室に講師を派遣することができました。	①継続	Ⅱ - 10



スポーツ振興補助金	市民の健康推進を根底に市民登山を実施しております。また、各種大会の補助を通じてスポーツ振興を図りました。 ・4月24日 野坂山市民登山：260人 ・7月23・24日 第24回気比の松原招待サッカー大会 45チーム533名 ・8月20・21日 第47回福井レガッタ 135クルー280人	夏休み、海水浴シーズンに開催されることでスポーツによる交流だけでなく、観光や宿泊などへの経済効果も図られました。また、野坂山登山道の補修について、野坂山振興会、山の会等の協力によりシーズン中の登山者の安全が確保されました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
国民体育大会選手等育成事業	平成30年の国体に参加可能な全年齢を対象に選手強化対策事業を行いました。調査により実施希望のあった15競技団体が強化選手を選定し、各競技団体主管で行う選手育成事業に対し支援を行いました。(陸上競技、水泳、ソフトテニス、卓球、バドミントン、柔道、ソフトボール、剣道、弓道、サッカー、テニス、空手道、ボウリング、スケート、ゴルフ)	国体2年前となったことから、選手の発掘から強化指定選手を絞り込んでの強化対策へと移行することができました。また、各競技団体における国体に向けた強化対策の機運を高めることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
野球フェスティバルの開催	市長旗高校野球大会と小・中学生軟式野球大会を同時に野球フェスティバルとして開催し、小中高一貫指導体制を確立しました。 【参加者】 ・嶺南地区の高校 5チーム ・二州地区の中学校 7チーム ・二州地区の学童野球 11チーム	野球フェスティバルは小・中・高校生が一堂に会する大会であり、全国的に稀で貴重なイベントであります。連盟、各チームの協力によりスムーズな運営ができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
県民スポーツ祭参加費補助金	生涯にわたって元気で活力のあるスポーツライフを実現しようとする県民スポーツ祭の市町対抗の部へ本市選手団を派遣する敦賀市体育協会に対し強化費や旅費を助成し競技力の向上を図りました。 平成28年6月15日から平成28年12月3日までの間、28競技 選手・役員計527名を派遣、6種目において1位の成績を収めました。	参加した28競技中25種目入賞しており選手の競技力の底上げ、向上が着実に図られていると考えられます。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
スポーツレベルアップ事業	本市スポーツのレベルアップを図るため、ジュニア層の強化を図るとともに、指導者を育成し、競技力の底上げを行いました。また、全国大会出場選手等の激励顕彰を行い、選手の向上心を高め、競技スポーツの技術向上に繋げました。 ・全国大会出場激励数 個人145名 26団体 ・優秀選手市長表彰事業 個人8名 0団体 ・スポーツリーダーセミナー 延べ27名 ・コンディショニングセミナー延べ262名 ・強化指定種目補助事業 7団体	優秀指導者等によるセミナーの開催により指導者の資質向上、選手の競技力向上が図られおり、併せて強化指定種目補助を行うことにより、指定クラブ等が全国大会レベルで活躍しています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
スポーツ振興の支援(スポーツ少年団)	スポーツを通じて心と身体を鍛え、たくましい活力に満ちた生活を営み、互いに協調、協力しあえる青少年の育成を目的に各団が特色ある活動を行っています。また団員同士の交流活動を行いました。 ・41団、1,172人が団員として登録 ・12月から1月にかけて単位団ごとに体力テストを実施 36団897名が参加	少子化による個々の団における団員数の偏りが顕著となっています。今後、未加入の子供にスポーツへの関心をたかめ、体を動かす楽しさを浸透させるためPRを行う必要があります。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

スポーツ振興の支援 (体育協会)	心身共に健康で実践力に満ちた市民育成を念願し、活動の充実と、より一層関心を深めるため、競技力の向上と市民総スポーツを目指して活動する市体育協会に対し支援を行いました。(競技力向上に関する事業7項目、社会体育振興に関する事業5項目) 市民スポーツ祭や加盟団体による各競技大会の運営等においてもスムーズに進めることができました。また、ジュニア層の育成等に積極的に取り組むなど加盟団体独自の活動も活発に行われています。	各競技協会においては、従来の活動に加えジュニア層の育成など活発になってきています。しかし、活発になればなるほど活動場所の確保が困難となってきており、屋内外問わず調整が必要と考えられます。地区体協においては、スポーツを通じて世代間交流・健康増進等に大きな役割を果たしています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
国内スポーツ交流事業	友好都市である各務原市及び姉妹都市である水戸市の市民と敦賀市民が、スポーツを通じて友好を深めるとともに競技力の向上を図りました。 ・学童軟式野球(各務原市) ・剣道(水戸市)	友好都市である各務原市、姉妹都市である水戸市との交流を図るとともに、質の高い試合ができました。また、敦賀市での試合の後、観光などによりスポーツ以外での効果がありました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
市民スポーツ祭の開催	スポーツを通じ、市民の健康と体力の増進を図り、広く市民相互の親睦と交流を深めるため、敦賀市体育協会への委託事業として9月22日、25日、10月2日、10日の4日間にわたり市民スポーツ祭を開催しました。 地区対抗種目 12種目 オープン種目 3種目 公開種目 1種目 参加者数 役員・選手 1,493人	地区によって、単独チームを構成できない競技もありますが、できる限り多くの選手が参加できるよう競技団体・地区体協において運営方法の見直しが行われ、多くの市民が交流することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
各種北信越大会の開催支援	敦賀市において開催される北信越高等学校体育大会開催にかかる経費を支援し、レベルの高い大会を開催することで敦賀市における選手の競技力向上に繋がります。 平成28年度北信越高等学校体育大会空手道競技会 兼 第33回北信越高等学校空手道選手権大会 平成28年6月18日～19日 291名	市内の高校生も選手として参加し、競技力の向上が図られました。また、市協会・市内高校が大会運営に参画しスムーズな大会運営を行うことができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
体育館管理運営	大きな大会などに利用できるよう施設利用の日程調整など管理運営を行うとともに、住宅地の中にあり個人利用も多いため、益々の利用促進に努めました。 ○利用者数 26,558人(前年度 36,326人) ※前年度増減比 73.11% <u>※天井落下物防止対策工事のため閉館(平成28年5月20日から6月30日)</u>	体育館としては管理している施設の中で一番古い施設ですが、運動公園体育館に次いで広い施設であり、唯一フットサルやインドアテニスなど冬季間の利用が出来る施設でもあり、利用しやすい施設として管理運営に努めました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
市立体育館天井落下物防止対策事業	市立体育館において、天井からの落下物が発見され、早急に安全点検と危険防止の対策が必要なため、天井落下物防止対策の工事を実施しました。 平成28年5月20日から6月30日 工事概要 天井裏木毛板現場発泡硬質ウレタン吹付け 2,570㎡ 屋根ベンチレーター防鳥網張り 4箇所	緊急に施設の安全点検が必要な事象が発生し、迅速な安全点検と危険防止工事の対策を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	②完了	II - 1 II - 10
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

野球場管理運営	約50年を経過して老朽化が顕著であり、施設の安全性が万全とはいえず、また場外飛球の危険性からも平成26年7月より使用を休止しています。 ○利用者数0人（前年度 0人） ※前年度増減比0%	施設として老朽化が顕著であり、安全性が万全とはいえず、また場外飛球の危険性からも使用を休止しており、今後の活用策について検討を進め、方針を導き出す必要があります。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
花城テニスコート管理運営	手軽なスポーツとして利用していただくために安い料金設定にしておき、また継続的に利用される方には年間利用券などを発行し利用促進を図りました。 ○利用者数17,052人（前年度16,934人） ※前年度増減比100.70%	当テニスコートは主に個人利用、運動公園テニスコートは主に団体利用と、両施設の特徴を生かした効率的利用を推進していきます。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
プール管理運営	花城、愛発の2プールを7月23日（土）から8月17日（水）まで一般開放し、事故なく運営できました。事業の存続について内容を検討し、プール管理・安全性の確保に努めながら、管理体制の強化を推進しました。 ※平成28年度より桜ヶ谷プールを教育政策課へ所管換え ○利用者数703人（前年度2,935人） ※前年度増減比23.95%	安全管理については、事故なく、また施設の大きなトラブルもなく運営できました。桜ヶ谷プールを教育政策課（粟野小学校）へ所管換えを行い、運営方法の見直しを図りました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	B												
東浦体育館管理運営	東浦体育協会による各種スポーツの練習場とした利用の他に、市内の企業・クラブからも利用があり、スポーツを通して健康増進のための施設運営を図りました。 ○利用者数（グラウンド含む）4,004人（前年度3,813人）※前年度増減比105.01%	当体育館は規模が小さく、立地的にも市街地から遠方であり、主に練習会場として使用されている状況です。本年度において、地元住民（東浦体育協会）の協力のもと管理運営費の削減を図りました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	B												
粟野スポーツセンター管理運営	スポーツ従事者の利用率が高い施設であり、効率的な利用促進と利用者の理解の中でスポーツの振興と推進を行いました。 ○利用者数（グラウンド含む）37,986人（前年度34,838人） ※前年度増減比109.04%	体育館のほかに、ナイターのできるグラウンドもあり、市民が利用しやすい環境となっております。利用者数は大きな減少もなく推移しており、今後においても効率的な運用・利用推進に努めます。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
金山体育館管理運営	体育館としては小さいため、市民対象の大会等は出来ないことから、主に地区の体育行事や日常的な利用推進を行いました。 ○利用者数5,888人（前年度6,698人） ※前年度増減比87.91%	当体育館は規模が小さく、駐車場が少ないことなどから各種大会としての利用はされておらず、主に練習会場としての使用されている状況で、日常的な利用推進に努めます。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
中郷体育館管理運営	運動公園体育館に次いで利用者数が多い施設であり、効率的な利用促進と利用者の理解の中でスポーツの振興と推進を行いました。 ○利用者数（グラウンド含む）44,629人（前年度41,431人） ※前年度増減比107.72%	市内のほぼ中心に立地し、グラウンドと大きな駐車場を兼ね備えており、また実高速道路インターチェンジが近くにあり、県大会レベルの大会が開催されることが多く、利用推進に繋がっています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 10
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

<p>きらめきスタジアムの指定管理</p>	<p>敦賀市ソフトボール協会が指定管理者として施設の管理運営業務を行い、ソフトボール競技の楽しさや競技力向上を図るため、指導者や審判員の講習会、ミニソフトボール教室の自主事業を開催するとともに、申し込みから許可書発行まで迅速に対応して利用者サービスを行いました。 ○利用者数 9,162 人（前年度 8,168 人） ※前年度増減比 112.17%</p>	<p>指定管理者として適正に管理運営を行っています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>福井しあわせ元気国体競技施設整備事業費</p>	<p>福井しあわせ元気国体の競技会場となる施設の整備促進を図り、国体の円滑な運営に資するため、ソフトボール少年女子の競技会場となるきらめきスタジアムにソフトボール用簡易外野フェンスを購入しました。 ○ソフトボール用簡易外野フェンス 96枚</p>	<p>国体の円滑な運営に資するため、きらめきスタジアムにソフトボール用簡易外野フェンスを設置しました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>学校体育施設開放事業</p>	<p>3校（小学校1校、中学校2校）のグラウンドを夜間開放。4月から10月までナイター利用として一般開放しました。定期的に日程調整の抽選会を行い、スムーズにナイター利用ができるよう努めました。 ○利用者数 3,673 人（前年度 4,173 人） ※前年度増減比 88.02%</p>	<p>スムーズな運営・利用が図られておりましたが、利用者の使用予定日に台風など天候不順が重なってしまい、使用できなかった日が多くあり、昨年と比べ利用者は減少しました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>武道館運営事業費</p>	<p>敦賀市シルバー人材センターが指定管理者（20年度から）として、施設管理及び施設利用の申込みから許可書発行まで迅速に対応し、利用者サービスを行っています。また自主事業として体操教室、ヨガ教室を開催し、利用者数の拡大に努めました。 ○利用者数 17,716 人（前年度 16,280 人） ※前年度増減比 108.82%</p>	<p>指定管理者として適正に管理運営を行っており、また自主事業を実施し、利用者数の拡大に努めています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

○総合運動公園

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
<p>運動公園 体育館改修事業費</p>	<p>老朽化による体育館外壁からの漏水防止及び外壁タイルの落下防止のための改修工事及び、体育館各所トイレの洋式化・内装等の改修工事、劣化の激しい体育館メインアリーナの床面改修工事を行いました。</p> <p>また、故障により停止していた、体育館内のデジタル時計の修繕及び、老朽化により正常に機能していなかったメイン体育館音響設備の修繕を行いました。</p> <p>【体育館外壁改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工期 平成28年7月25日～平成29年2月15日</li> <li>・概要 既設モルタル層浮き部処理 エポキシ注入 16穴/m<sup>2</sup> 119m<sup>2</sup> 色調保持型外装タイル剥離防止工法 エバーガードSG-1程度 5,483m<sup>2</sup> タイル目地及び金属建具廻り(方立共) シーリング打ち替え 4,935m ガラスシーリング打ち替え 3,851m 玄関ポーチトップライトシーリング打ち替え(枠、ガラス廻り共) 377m</li> </ul> <p>【体育館メインアリーナ床面改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工期 平成28年11月14日～平成29年1月6日</li> <li>・概要 メインアリーナ 1,967m<sup>2</sup> サンダー掛け後ウレタン塗装、ライン引き(ポイント打ち)</li> </ul> <p>【体育館各所改修工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工期 平成29年2月17日～平成29年3月24日</li> <li>・概要 和式便器を洋式便器に改修 洋式便器に改修するトイレブースを内開きから外開きに改造 車寄せアルミパネル部メタリック塗装 129m<sup>2</sup> 車寄せ天井ケイ酸カルシウム板EP塗装 79.1m<sup>2</sup></li> </ul> <p>【体育館デジタル時計修繕】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工期 平成28年6月10日～平成28年9月20日</li> <li>・概要 メイン体育館 1台 サブ体育館 1台</li> </ul> <p>【メイン体育館音響設備修繕】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工期 平成28年11月4日～平成29年1月31日</li> <li>・概要 ミキサ卓、電力増幅架、スピーカー(ケーブル含む)、マイク(スタンド等含む)、接続盤用コネクタ 1式</li> </ul>	<p>施設の老朽化による、雨漏れや故障等の不具合に、計画的に対応することができました。</p> <p>また、平成30年には福井しあわせ元気国体が各施設で開催されるため、不備のないよう、また、利用者にとって安全で安心のできる快適な施設の整備に努めていきます。</p> <table border="1" data-bbox="1086 439 1222 622"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 10</p>
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

<p>福井しあわせ元気国体競技施設整備事業費</p>	<p>福井しあわせ元気国体の競技会場となる施設の整備促進を図り、国体の円滑な運営に資するため、運動公園野球場スコアボード判定表示灯（SBO表示からBSO表示へ）の改修工事を行いました。また、競泳競技の会場となる、プールの内外装改修のための設計業務を行いました。</p> <p>競泳競技の開催に必要な備品として、競泳用自動審判計時装置及び競泳競技処理コンピュータシステムを購入いたしました。</p> <p>【プール改修工事設計委託業務】 ・工期 平成28年8月3日～平成28年11月15日</p> <p>・概要 総合運動公園プール改修工事に伴う設計委託業務 1式</p> <p>【野球場スコアボード判定表示灯改修工事】 野球場スコアボード等のストライク、ボール判定表示灯の入替 ・メインスコアボード ・サブスコアボード ・得点操作盤</p> <p>【競泳用自動審判計時装置及び競泳競技処理コンピュータシステム】 《自動審判計時装置》 プリンティングタイマー 2台 付属品ユニット 2式 PT駆動用バッテリー 2台 PT駆動用チャージャ 2台 SBOX～PT間ケーブル 1台 タッチプレート取付金具 40本 タッチプレート収納台車 4台 タッチプレート 20枚 電子式スタート音発生装置 2式 リレーセンサー付スタート台 18台 スタート台収納台車 5台 バックストロークレッジ 18台 スタートスピーカーシステム用ケーブル収納トランク 2個 データバッファ装置 2台 《競技処理コンピュータシステム》 競技用リザルトソフトウェア 1式 サーバーコンピュータ 1台 サーバー用無停電電源装置 1台 端末PC 4台 端末PC用無停電電源装置 4台 速報テレビ用端末 1台 速報テレビ用端末用無停電電源装置 1台 プリンター 3台 HUB 2台</p>	<p>平成30年の福井国体を前に、各開催競技の円滑な運営に資するため、施設の不具合や、競技を開催するうえで必要な整備や改修を行うことができた。</p> <p>また、国体施設整備の補助金の活用等財源の確保もあり、実施へとつながった。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 10</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>運動公園管理運営</p>	<p>運動公園内各施設を安全・安心な施設として維持するための管理運営を行いました。施設の老朽化により、予定外の修繕等が多々発生しましたが、早急に対応しました。主な修繕・工事としては、ローラー滑り台ローラー交換修繕、陸上競技場円盤・ハンマー投用囲い修繕、弓道場汚水ポンプ取替修繕、野球場記録・エアコン室取替修繕、野球場時計修繕等を実施しました。</p>	<p>管理委託業務により、いち早く問題を見つけ、安全安心対策につなげることが出来ました。また、予算計上外の修繕等により、費用が嵩みましたが、今後も施設の老朽化により、随時修繕が発生する可能性があり、早急に対応できるよう、</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 1 II - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

	<p>また、各種ポンプ関係や、バルブ等の故障により、漏水や施設利用に支障をきたすトラブルも発生し、早急に修繕等対応を行いました。</p> <p>さらに、簡易な修繕等は、原材料のみ購入し職員で対応するなど、予算の削減に努めました。</p>	<p>日々の点検などにも注意を心がけ、安全で満足度の高い施設の維持に努めます。</p>											
<p>運動公園 プール管 理運営</p>	<p>清潔で安全な環境を維持し、利用者に満足度の高い水泳場を提供するため、快適で安全なプール環境の維持・管理に努めました。経年劣化等による大きな修繕としては、プールろ過機洗浄排水弁取替修繕、25mプール用三方弁交換修繕、プール更衣ロッカー鍵等取替修繕、屋内プール空調自動制御装置修繕、可動床装置部品交換修繕、プール玄関自動ドア修繕等を実施しました。</p> <p>また、シャワーやトイレ等での漏水が頻繁に起こり、今後も劣化状況に応じ、緊急に修繕や取替工事などの対応が必要となってくると考えます。</p>	<p>施設の老朽化が目立ちはじめ、管理運営及び整備計画の検討を要する。また、漏水や器具の故障が突発的に発生しましたが、早急に対応することができました。今後も、安全で安心な施設を維持し、利用者数の増加に努めます。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 1 II - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

## 国体・大会に向けて

平成30年に開催される福井しあわせ元気国体（第73回国民体育大会）・福井しあわせ元気大会（第18回全国障害者スポーツ大会）では、敦賀市民の総力を結集し、一致団結して国体・大会の成功を目指します。また、国民体育大会の開催を契機に、市民一人ひとりがゆとりと豊かさを実感できる真の生涯スポーツ社会の実現、活力のある地域づくりを進めるとともに、本市の掲げる「世界をつなぐ港まち みんなで拓く交流拠点都市 敦賀」の実現にむけての原動力となる大会を目指します。

## 具体的な取り組み

### ○敦賀市実行委員会

平成28年8月25日に常任委員会及び総会を開催し、27年度の事業報告、28年度の事業計画等を承認いただき、あらためて各関係団体が一丸となって国体・大会を推進していくことを再確認しました。

### ○先催市町への視察等

敦賀市での国体・大会を円滑に進めるため、国体の視察および国体後に開催市町が後催市町を対象に開催する事業概要説明会に参加し、国体開催までの準備に対する情報の収集に努めました。

### ○福井県・各関係団体との連携

福井県および各競技団体と連携し、競技施設の整備や競技役員・競技補助員・競技用具等の配備等について協議・調整を進めています。

宿泊・輸送・おもてなし等の受け入れ環境の整備、広報・市民活動・ボランティア活動等の市民あがての啓発活動に向けて、福井県および各関係団体と連携し、業務を進めています。

いずれの業務についても国体開催まで随時協議を重ね、よりよい競技環境の整備に努めます。



国 体 推 進 課

【国体推進課の事務分掌】（人事考課：様式1「組織の基本課題」より）

- 1 国体開催に向けた施設、競技用具等の整備
- 2 敦賀市実行委員会の運営
- 3 福井県国体推進局、敦賀市開催競技団体等との連携及び広報啓発
- 4 先催市町への情報収集

【自己点検・評価】

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
国民体育大会関係経費	平成30年に本県で開催される第73回国民体育大会及び第18回全国障害者スポーツ大会に向けて、県・県内各市町及び競技団体と連携して準備を進めるとともに、岩手国体の視察及び国体後に開催された後催県への説明会に出席し、国体開催にあたっての情報収集を行いました。	本市における開催競技の円滑な運営を期するため「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会敦賀市実行委員会」に対し支援を行い、県及び競技団体等と連携して準備を進めました。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II - 10
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

## 敦賀市教育委員会の自己点検・評価報告書に対する外部の知見

東洋大学経済学部 井上 武史

### はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を受けて敦賀市教育委員会で行われる自己点検・評価について、意見を述べることにしたい。

今回の評価対象となるのは、平成28年度に実施された事業である。第6次敦賀市総合計画の基本構想や後期基本計画、実施計画等に位置づけられた事業について、その着実な実施と成果の実現が求められる。

なお、第6次敦賀市総合計画後期基本計画が平成28年度より開始された。そこで、今回の評価は前期基本計画の実施状況や数値目標の達成状況を検証しつつ、未実施・未達成の部分についての対応も何らかの形で後期基本計画に引き継ぐ必要がある。

数値目標については、後期基本計画の初年度ということもあり、今のところ目標年度（平成32年度末）の水準には達するものではない。もちろん初年度に達成できるような水準では目標としての意味をなさないので、結果について特段の見解はない。重要なのは、目標年度までに目標に達するまでのプロセスが示されているかどうか、である。今回の結果がどのような要因によるものなのか、今後どのような工夫・取組によって目標に到達するのかを具体的に説明し、それに沿って実施していくことが求められる。

今回は後期基本計画に移行したことによって目標の内容や数値に変更があったため、こうした説明が必ずしも十分とは言えない部分が見受けられた。この部分は自己点検の出発点となるものなので、各課による「まとめ」の中で十分に分析・説明していただきたい。

こうした点を踏まえて、今回の評価に対する意見と指摘すべき項目について意見を述べる。

### 1. 敦賀市教育振興基本計画と進行管理及び自己点検・評価調書の追加による今後の本事業の見直しについて

今回の自己点検は新しい様式での評価となって4回目である。総合計画に示された目標の達成状況を検証しつつ、予算に計上された事務事業単位で評価を行い、次年度以降の改善に生かすことを主眼としてきた。新しい様式は記載項目の簡素化による評価の分かりやすさと事務負担の軽減を図ることを目的に作

成されたものである。

さて、平成28年9月に「敦賀市教育振興基本計画」が策定された。これは教育基本法第17条第2項の規定に基づき、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として位置づけられるもので、第6次敦賀市総合計画及び敦賀市教育大綱との整合性を図るものとなっている。また、敦賀市教育振興基本計画の進行管理及び自己点検・評価調書についても、同計画に設定された20の基本施策ごとに新たに作成されている。

ここで示す知見は敦賀市教育振興基本計画と進行管理及び自己点検・評価調書を対象とするものではない。しかしながら、敦賀市教育振興基本計画が第6次敦賀市総合計画と整合性をとる形で策定され、自己点検・評価も同様に行われることとなった。同じような枠組みが2つ存在し、しかも自己点検・評価は毎年行うものだから事務負担を増すだけでなく、いずれを参照すれば良いのか市民に分かりにくい印象を与えらるる。

そこで、次年度以降は次のような形で統合を図ることを提案したい。

計画名称	計画の内容	自己点検・評価の内容
第6次敦賀市総合計画	予算計上の前提 教育内容の記述は少ない	数値目標の検証 予算計上事業の検証
敦賀市教育振興基本計画	教育内容の基軸 予算との関係は少ない	主な実施内容と課題、今後の方向性の記述

両者の特徴をまとめると、上表のとおりである。これらの比較を踏まえ、次のように提案したい。

まず、敦賀市第6次総合計画と事務事業に基づく自己点検・評価は、事務事業の担当課ごとにとりまとめる形になっているが、これを教育振興基本計画の基本施策単位で担当課を設定する形にする。総合計画にしても教育振興基本計画にしても、本来の評価は受益者の立場に立つべきものであり、これまでのように担当課ごとに集約すれば受益者の立場が見えにくくなる。一方、担当課ごとの集約は事務負担の軽減に寄与する面もある。教育振興基本計画の自己点検・評価は当初から基本施策単位で行われているから、今後事務負担の増加を招くことはないと考えられる。そこで、教育振興基本計画の自己点検・評価を今後のベースとすることを提案したい。

なお、教育振興基本計画には教育内容が豊富に盛り込まれているのに対して、第6次敦賀市総合計画やそれに基づく事務事業は予算計上された内容を単位としている。そのため、第6次敦賀市総合計画に基づく評価は教育内容よりも予算の執行状況が強調されがちであった。教育行政の評価は、予算の執行よりも教育内容の方が重要であろう。そこで、今後の評価は教育内容を重視して、新たに行われた教育振興基本計画に基づくものに移行することが望ましい。その

うえで、これまで行ってきた第6次総合計画に基づく評価を部分的に加える形で、両方のメリットを生かせるものにしてはどうだろうか。

第6次総合計画に基づく評価の中から教育振興基本計画に基づく評価に加えるべき部分とは、次の点である。

第1に、数値目標である。教育振興基本計画にも数値目標が掲げられているが、その数は少ない。数値目標の達成状況を検証することは自己点検・評価の出発点となるから、第6次総合計画に掲げられた数値目標の検証は新たな枠組みでも行っていただきたい。

教育振興基本計画における数値目標は、基本方針ごとに設定されている。そこで、総合計画に掲げられている数値目標を振り分け、教育振興基本計画の基本方針に対応する部分に加えることが望ましい。

なお、教育振興基本計画の自己点検・評価の調書には基本方針よりも細かい基本施策に数値目標が重複して掲載されており、基本施策の評価の流れからみれば違和感を覚える。そこで、基本施策ではなく本来の基本方針における数値目標の検証を、第6次総合計画の数値目標も含めて行ってはどうだろうか。様式は特に必要なく、数値目標の達成状況を検証する内容であれば良いと思われる。

第2に、教育振興基本計画の自己点検・評価の付属資料として、予算に計上された事務事業の実施内容を示したリストを加えていただきたい。これは敦賀市第6次総合計画に基づく自己点検・評価の「個票」に該当するものである。ただし、これまでは事務事業ごとに1枚の個票が作成されており、重い事務負担につながっていた。そこで、新たな付属資料は事務事業の名称と担当課、決算額、実施内容、総合評価、今後の方向などを簡潔に示し、1枚の帳票で4事業程度を掲載できるものにしてはどうだろうか。

次に、教育振興基本計画の自己点検・評価における「計画の分析と評価」の記述を充実することである。これは基本施策ごとの点検・評価であるから、最も重要な部分である。先に述べたように数値目標の記載は不要となる（数値目標の達成状況を検証する内容を新たに加える）から、1枚の帳票のまま記述のスペースを広げることができる。また、第6次総合計画における評価の個票を簡素化し、本帳票の付属資料となる。こうして、教育振興基本計画の自己点検・評価における「計画の分析と評価」の記述する内容も充実することで、これまでの評価を十分に行える手段を本欄に継承しつつ、評価の事務負担を軽減させることもできるだろう。

そこで、教育振興基本計画の自己点検・評価における「計画の分析と評価」の記述欄を拡大するとともに、記述内容を充実していただきたい。

## 2. 評価の背景となる財政状況を説明すること

この点は繰り返し指摘したが、反映されていない。今後ますます重要になると思われるので、引き続き対応をお願いしたい。

原子力発電所の廃炉や再稼働、国のエネルギー政策が次第に具体化されていく中で、敦賀市の財政状況も見通しが厳しくなりつつある。そのため、予算編成でも「標準スケール」など新たな手法を導入するとともに、公共料金を始め市民の負担も重くなる傾向にあり、費用対効果だけでなく予算規模への配慮も重要になっている。

特に、総合教育会議の設置により予算編成権を持つ首長と教育委員会の関係が深まるとともに、教育振興基本計画に基づく評価では事務事業との関係が従来の第6次総合計画に基づく評価よりも分かりにくくなることを見込まれる。

したがって、評価の枠組みが新しくなったとしても、敦賀市全体の財政状況や予算編成の概要、教育委員会所管の財政規模の推移などを冒頭に加える必要が高まったと考えられる。新たな枠組みにおいても対応をしていただきたい。

## 3. 各課の評価内容に関する意見

各課の評価についてヒアリングを行った結果、評価内容について以下のとおり意見を述べる。

### ① 教育政策課及び所管課

・平成28年度の事業実施においては教育政策課として実施してきたが、平成29年度は教育総務課と学校教育課に分けられ、行政分野と教育分野の役割分担が取られるようになった。今回の評価は28年度を対象としているため教育政策課として記述することでも良いが、記述の時点は教育総務課と学校教育課に分けられた後である。

従来2課で行われていたものが統合され、29年度から再び分けられたことについて、その経緯や事務事業の遂行に期待される効果を記述することが望ましい（次年度の対応でも可）。

・個票の「事務事業の概要と取り組み状況」における「具体的な取り組み状況…実施年月、参加者数、購入量など」の欄は、文字通り具体的な内容を記述することを求めている。それは、受益者である市民が事務事業によって具体的にどのようなメリットを享受しているのかをイメージできるようにすることが目的である。一部の個票について、こうした数値の記載が不十分なものが見受けられたので、改善をしていただきたい。

・個票の「具体的な取り組みにつながらなかった点とその内容」については、今後の改善の種となるものであり、きわめて重要な部分である。行政としては自らの反省点ということもあり記述に消極的となりがちであるが、細かい点でも記述することによって、むしろ改善に積極的な姿勢を持っていることを示していただきたい。また、「今後の方向」は記述を受けて改善に結びつけていく欄であるから、こちらも具体的かつ踏み込んだ記述をしていただきたい。

・学校給食センターでは給食センターのあり方に関する検討会を平成28年度と29年度に開催している。今回の評価については検討会の途中に当たるため評価の時期としては難しいタイミングと言える。とはいえ、今後のセンターのあり方を決める重要な事業であることから、検討状況や今後の見通しなどについて「まとめ」の欄に記述することが望ましい。

## ②生涯学習課及び所管課

・生涯学習センターの主催事業利用者実績やプラザ萬象の利用者数が減少しているなど、前回と比較すれば伸び悩みの部分も見られる。しかしながら、その理由についてしっかりと検証されているため、評価できる。

・地域づくり事業は、地域コミュニティモデル事業として住民主導で地域活性化などを行うものである。こうした事業は「地域じまんづくり」など類似の事業が他の課でも行われており、それらとの違いや相乗効果の創出など一定の理念に基づいて体系的に行われているかどうかについて、十分な説明をしていただきたい。

・公民館の利用者は高齢の方が比較的多く、若年層の利用が少ない。これは長年の課題であるが、人数は少ないものの新しい講座を開設して積極的に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。松原公民館の開設を機に公民館への注目や魅力が高まっていると考えられるので、若年層が松原公民館を利用する機会を重点的に創出し、それをきっかけに各公民館へ効果が波及していく仕組みの検討をしてはどうか。

・少年愛護センターではインターネット接続機器の普及などにより青少年の外出機会が減り、声かけ人数も減っているという。これは好ましい面だけでなく、声かけの必要な青少年に声かけができなくなるという側面もあると考えられる。今後の声かけや補導のあり方について検討していくということだが、青少年の犯罪状況などを勘案してぜひとも新たな方向性を打ち出していただきたい。

・少年自然の家については、利用状況が大きく向上していることから高く評価できる。しかしながら、このような変化をもたらした要因についての分析が十分とは言い難い。リピーターが増加した理由、市外の利用団体が増えた理由などを示す必要がある。また、利用者に対してアンケート調査をするなど、少年自然の家の魅力や足りない部分を利用者目線で把握することも必要ではないだろうか。

・図書館にかかる多様な結果について、表を用いて明示されるとともに増減理由も分かりやすく記載されており、評価できる。ただし、図書館の機能が「まちづくりの拠点」と位置づけられていることについては、関係部署との十分な調整が必要である。なぜならば、教育委員会所管に限らず多くの政策が「まちづくり」に関連しており、それらの課が図書館を「まちづくりの拠点」と位置づけているかどうか分からないからである。今後、図書館を「まちづくりの拠点」とするために、部局横断で必要な取り組みを整理する機会を創設することが望ましい。

#### ④文化振興課及び所管課

・数値目標が「指定・登録文化財数」となっているが、これは市の指定を対象としており、県や国が指定などに切り替わると市の指定から外れるということであった。必ずしも市と県・国に上下関係があるわけではないが、県や国が指定する文化財も市の指定文化財と同様に重要であり、目標の一部に含まれるであろう。こうした点を考慮して目標の内容を設定する必要があると思われる。

・市民文化センターについては、高頻度での利用団体が加わったことで利用件数も利用者数も増加した。高く評価したい。

一方、文芸協会事業については、今回も入場者数が伸びなかった。しかし、当該事業はその性質上、入場者数だけを追求するものではなく、新たに地域に根づく文化として育てていく視点も重要である。前回は指摘したが、定番の公演等で安定した集客を確保しつつ、長期的な視点で地域に浸透を図る事業を組み合わせることも重要と考えられる。

・博物館は平成27年7月にリニューアルオープンした。その成果を明らかにするため、従来の来場者数との比較をしていただきたい。

#### ⑤スポーツ振興課及び所管課

・個票の「事務事業の概要と取り組み状況」と「総合評価」の記載内容が充実しており、どんな取り組みが行われているのか、どのように評価しているのか容易に把握することができた。

今後さらなる改善の余地があるとするれば、例えば図書館の「まとめ」のような形で、スポーツ振興課所管施設（きらめきスタジアム、各地区体育館等）や総合運動公園の各施設（陸上競技場、野球場等）の利用人数について前年比を含めて表で示すことにより、数値を強調した記載ができると考えられる。個票には記載されているので、それを総括した表として「まとめ」にも示していただきたい。

なお、国体の開催が施設の利用増に結びつくのかどうか、市民の関心が高いと考えられる。ヒアリングの際に説明を受けたが、記載を加えた方が良いと考えられる。



## 敦賀市教育委員会の自己点検・評価報告書に対する外部の知見

福井県立大学学術教養センター 黒田 祐二

### はじめに

平成 28 年度から「第 6 次総合計画後期基本計画」が開始された。そのため、今回の自己点検・評価は、当該計画の最初の年度の取り組みに対する点検・評価となる。

報告書やヒアリングを通して、それぞれの課が目標達成に向かって真摯な取り組みを行っていることや、自己点検・評価をしっかりと行おうとしていることが窺えた。これらの取り組みや姿勢について敬意を表したい。

また、平成 28 年度から「敦賀市教育振興基本計画」に関する自己点検・評価が行われることとなった。本計画の中には、学校教育を充実させるための 8 つの基本施策が含まれており、これらの基本施策についても自己点検・評価することになった。学校教育の充実は教育委員会の最も重要な業務であるため、この点検・評価が今後しっかりと行われることを願っている。

以下に、報告書とヒアリングの結果を踏まえながら、全体と各課に分けて意見を述べる。なお、「敦賀市教育振興基本計画」に関する自己点検・評価が今後の軸になっていく可能性があることから、今回新たに加わった「敦賀市教育振興基本計画の進行管理及び自己点検・評価調書」についても、全体に関する意見の中で述べる。

### 1. 全体に関する意見

#### ①第 6 次総合計画後期基本計画の自己点検・評価に関して

まとめや個票において、PDCA のサイクルに沿った記述が多く見られた。PDCA サイクルに基づいた自己点検・評価が浸透していることを示すものであり、高く評価することができる。

その一方で、課題もあると考えられる。第一に、「後期基本計画の数値目標との比較」において「実施計画」が前期基本計画から変更になったものがあるが、各課の「まとめ」の中で、変更になった計画について記述がなかった課がいくつか見られた。後期基本計画に沿って自己点検・評価を行って頂けるようお願いしたい。

第二に、数値目標に対する実績が必ずしも良好であるとはいえない点である。

計画初年度の実績であるため、数値目標に届いていないことは自然なことかもしれないが、目標年度の数値との隔たりや前期基本計画での5年間の実績の推移を踏まえて考えると、数値目標に今後4年間で達成できるかどうかやや心配なところがある。今後の取り組みに期待したいところである。

## ②敦賀市教育振興基本計画の自己点検・評価に関して

教育委員会の最も重要な業務である学校教育の充実について、体系的な点検・評価が行われるようになったことは高く評価できる。また、書式中の「計画目標」について、多くの基本施策において数値目標が掲げられている。できる限り客観的で目に見える指標を設けて自己点検・評価しようとしているところが高く評価できる。また、計画目標以外の項目として、「主な実施内容」、「自己評価」、「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」、「課題に対する今後の方向性」があるが、それぞれPDCAのサイクルに沿って設けられたものであると読み取れる。PDCAサイクルに基づいて自己点検・評価を行うことは極めて重要であるため、高く評価できる。

一方で、書式に関して改善が必要と思われるところもある。書式中の全ての項目はPDCAに沿って設けられていると読み取れるが、この内、「Check」に当たる項目は、「自己評価」と「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」である。しかし、これらの項目が、元々の「Check」の意味に合うように設けられていない。

「Check」の元々の意味を確認するために、改めてPDCAサイクルがどのようなものであるかを考えてみたい。

- ・ Plan（どこに向かっているのか）
  - ・ ・ 教育振興基本計画の「基本施策」に基づいて「計画目標」を立てる
- ・ Do（そこに向かって何をしたのか）
  - ・ ・ 計画目標（や基本施策）に向かって取り組みを行う
- ・ Check（結果はどうだったか。なぜそういう結果だったか。課題は何か）
  - ・ ・ 実績と計画目標とを比較し、計画目標の達成・未達成を点検する（もしくは基本施策を実現できているかどうかを点検・評価する）
  - ・ ・ 計画目標の達成・未達成の要因を検討する（原因分析）
  - ・ ・ 原因分析に基づいて課題を明確化する
- ・ Action（これからどうするか）
  - ・ ・ 原因分析と課題を踏まえて次年度に具体的にどのような取り組みを行うかを明確にする

上で述べた通り、「Check」に当たる書式中の項目は、「自己評価」と「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」である。しかしながら、「自己評価」は、「Do」に当たる「主な実施内容」のところに入っており、「Check」に当たる「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」のところに入っていない。また、「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」の欄は、「計画目標を達成できたかどうかの点検」（書式中の「自己評価」に当たる）と「原因分析」が記載できるようになっていない。

従って、もし現行の書式を今後とも使用するのであれば、「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」の欄を改善し、上記2点を記述できるようにすることが必要ではなからうか。行っているのは自己点検・評価であるため、「Check」の作業はとりわけしっかりしたものにする必要があるからである。

もう一つ、「基本施策」と「計画目標」が十分に対応していないと思われるところがいくつかある。計画目標は、基本施策を実現するために掲げられた目標であり、計画目標を達成することで基本施策が実現されたと判断できるようになっているのではいかと思われる。そう考えると、基本施策の内容と計画目標の内容は十分に一致している必要があるのではないか（そうでないと、計画目標を達成したからといって基本施策が実現されたということにはならないからである）。基本施策は計画の根幹であると思われるが、その根幹である基本施策を実現できたか否かを点検・評価できるようにするために、基本施策との対応が不十分な計画目標については改善する必要があるのではなからうか。

## 2. 各課に関する意見

### ①教育政策課およびその所管課

・取り組み内容とその成果が詳しく記述されており、この記述から、教育委員会の運営などの業務が滞りなく行われていることが窺える。

・その一方で、前回も指摘したことであるが、「自己点検・評価報告書（まとめ）」において、課題と今後の方向性についての記述が乏しい。

・また、後期基本計画に「公立幼稚園改善計画」と「次世代学校給食のあり方検討計画」が含まれているが、これらの計画の進行状況や実績の評価が「自己点検・評価報告書（まとめ）」において記載されていない。

## ②生涯学習課およびその所管課

・「自己点検・評価報告書（まとめ）」において、数年間の実績、その増減の要因分析、今後の方向性が明確に記述されている。ここから、PDCA のサイクルを強く意識した取り組みを行っていることが窺える。

・生涯学習センターでの開催講座について、市民からの要望も踏まえつつ各種講座を開催しようとする努力や工夫が見られる。

・一部、実績の増減についての要因分析が十分になされていないと思われるところがある。例えば、改修工事をしていたために年間の利用者数が少なかったという場合、改修工事の期間を除いた期間での利用者数が例年と比較してどうだったのかを検討することもできる。また、リピーターや市外団体の利用が増えたため、年間の施設利用者数が増えたという場合、何故リピーターや市外団体の利用が増えたのかを検討することもできる（それにより、次の取り組みに活かすことが可能になる）。一つの例であるが、こういった詳細な分析が必要ではないだろうか。

## ③文化振興課およびその所管課

・「自己点検・評価報告書（まとめ）」において、数値目標と比較して実績が記述されている。また、現状の分析、課題、今後の方向性についてもしっかり記述されている。

・博物館がリニューアル・オープンしたが、入場者アンケートの満足度が例年と比べると低く 87%であった。「自己点検・評価報告書（まとめ）」においてこの点を記載し、要因分析と今後の改善策を記述した方がよいと思われる。

## ④スポーツ振興課およびその所管課

・「自己点検・評価報告書（まとめ）」において、数値目標と比較した実績が記述されている。同時に、現状の分析、課題、今後の方向性についてもしっかり記述されている。

・数値目標が設定されている「競技レベル向上推進計画」「コミュニティスポーツ推進計画」「生涯スポーツ推進計画」について、「自己点検・評価報告書（ま

とめ)」に記述が見られない。

#### ⑤国体推進課

・平成 30 年度に行われる国体の開催に向かって着々と準備が進められていることが窺える。

## 敦賀市教育委員会事務の自己点検・評価

### ■なぜ自己点検・評価をするのか？

- ◇ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律により規定されています。
- ◇ 法の趣旨は、市民への説明責任、効果的な教育行政の推進にあります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会の責任体制の明確化が謳われ、平成20年4月1日から、教育委員会の活動の自己点検・評価を行うことが義務付けられ、議会に報告し公表することとされました。

また、これを行うに当たって、学識経験者の知見を活用することとされました。従って、本市においても、平成20年度から自己点検・評価を実施しています。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### ■何を評価するのか？

- ◇ 教育委員会の権限に属する事務の管理・執行状況について評価することになります。

教育委員会の権限に属する事務とは次のとおりです。

地方自治法 第180条の8に教育委員会の事務について規定があります。この中の「別に法律の定めるところ」とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」も指しており、第21条に教育委員会の管理・執行する事務の内容が規定されています。

【参考】 地方自治法 抜粋

第180条の8 教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他の教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱及び教育職員の身分取扱に関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋  
(教育委員会の職務権限)

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- (1) 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- (2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- (3) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (4) 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- (5) 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- (6) 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- (7) 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
- (8) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- (9) 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- (10) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- (11) 学校給食に関すること。
- (12) 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。
- (13) スポーツに関すること。
- (14) 文化財の保護に関すること。
- (15) ユネスコ活動に関すること。
- (16) 教育に関する法人に関すること。
- (17) 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- (19) 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。
- (19) 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。  
(事務の委任等)

第25条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (5) 次条の規定による点検及び評価に関すること。
- (6) 第27条及び第29条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第1項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

4 教育長は、第1項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第1項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律を受け、敦賀市教育委員会教育長事務委任規則及び敦賀市教育委員会事務局組織規則を定め、事務の具体的な内容を示しています。また、施設の設置条例において、設置の目的など重要な事項を規定しています。

【参考】 ○敦賀市教育委員会教育長事務委任規則

平成 15 年敦賀市教育委員会規則第 13 号

(教育長への委任)

第 2 条 教育委員会は、その権限に属する事務のうち、次の各号に掲げる事項を除き、教育長に委任するものとする。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を定めること。
- (2) 教育委員会の所管に属する学校、公民館その他の教育機関(以下「教育機関」という。)の設置及び廃止に関すること。
- (3) 県費負担教職員の懲戒、任免その他の進退について内申に関すること。
- (4) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (5) 教育長並びに教育委員会事務局及び教育機関の課長補佐(同等の者を含む。)以上の職員の任免に関すること。
- (6) 前 3 号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (7) 重要な教育機関の財産の取得について、市長に申出を行うこと。
- (8) 教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと。
- (9) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見の申出を行うこと。
- (10) 法令、条例等に基づく各種専門委員の任命、委嘱等に関すること。
- (11) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (12) 児童及び生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。
- (13) 教科用図書採択に関すること。
- (14) 文化財の指定及び解除に関すること。
- (15) 請願、陳情、訴訟及び異議申立てに関すること。
- (16) 教育に関する表彰に関すること。
- (17) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。



教育委員会の事務と教育長への事務委任の関係は下表のとおりです。

(1)教育委員会の事務と教育長への事務委任の関係	
地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (抜粋)	教賀市教育委員会教育長事務委任規則
教育委員会の職務権限	教育長に委任されない事務
(1) 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、 <b>管理</b> 及び廃止に関する事。	1 教育行政の運営に関する一般方針を定めること。
(2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関する事。	2 教育委員会の所管に属する学校、公民館その他の教育機関（以下「教育機関」という。）の設置及び廃止に関する事。
(3) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関する事。	3 県費負担教職員の懲戒、任免その他の進退について内申に関する事。
(4) 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関する事。	4 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
(5) <b>教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関する事。</b>	5 教育長並びに教育委員会事務局及び教育機関の課長補佐（同等の者を含む。）以上の職員の任免に関する事。
(6) 教科書その他の教材の取扱いに関する事。	6 前3号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
(7) 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関する事。	7 重要な教育機関の財産の取得について、市長に申出を行うこと。
(8) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関する事。	8 教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと。
(9) 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関する事。	9 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見の申出を行うこと。
(10) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関する事。	10 法令、条例等に基づく各種専門委員の任命、委嘱等に関する事。
(11) 学校給食に関する事。	11 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
(12) 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関する事。	12 児童及び生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。
(13) スポーツに関する事。	13 教科用図書 of 採択に関する事。
(14) 文化財の保護に関する事。	14 文化財の指定及び解除に関する事。
(15) ユネスコ活動に関する事。	15 請願、陳情、訴訟及び審査請求に関する事。
(16) 教育に関する法人に関する事。	16 教育に関する表彰に関する事。
(17) 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関する事。	17 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する事。
(18) 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関する事。	
(19) 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関する事。	

(注) .....点線は、一部分関連するもの

◇ 評価の対象となる事務は、「評価項目」として次のように分類します。

私達は、毎日、法令や規則に基づき事務を執行しています。事務の自己点検・評価を行う場合は、具体的で誰でも理解できるよう分類する必要があります。

それでは、どのように分類し、どのような評価項目を設定するかということですが、先に述べたように私達は法令に基づいて仕事をしています。仕事には必ず費用が伴いますので、予算の区分に従い分類することが簡単で評価しやすい方法です。また、毎年9月議会において、前年度の「主要な施策の成果に関する説明書」により議会へ報告しています。

この自己点検・評価報告書も、議会へ報告することとなっていますので、これを利用することによって議会への説明も容易になります。

従って、予算の事業名の小事業までを、「評価項目」とし、評価項目ごとに評価調書を作成します。

#### ■誰が評価するのか？

◇ 事務の点検・評価の担当者は、事務分掌における主担当者を中心に課（所）内にて一次評価します。 ※評価調書の作成

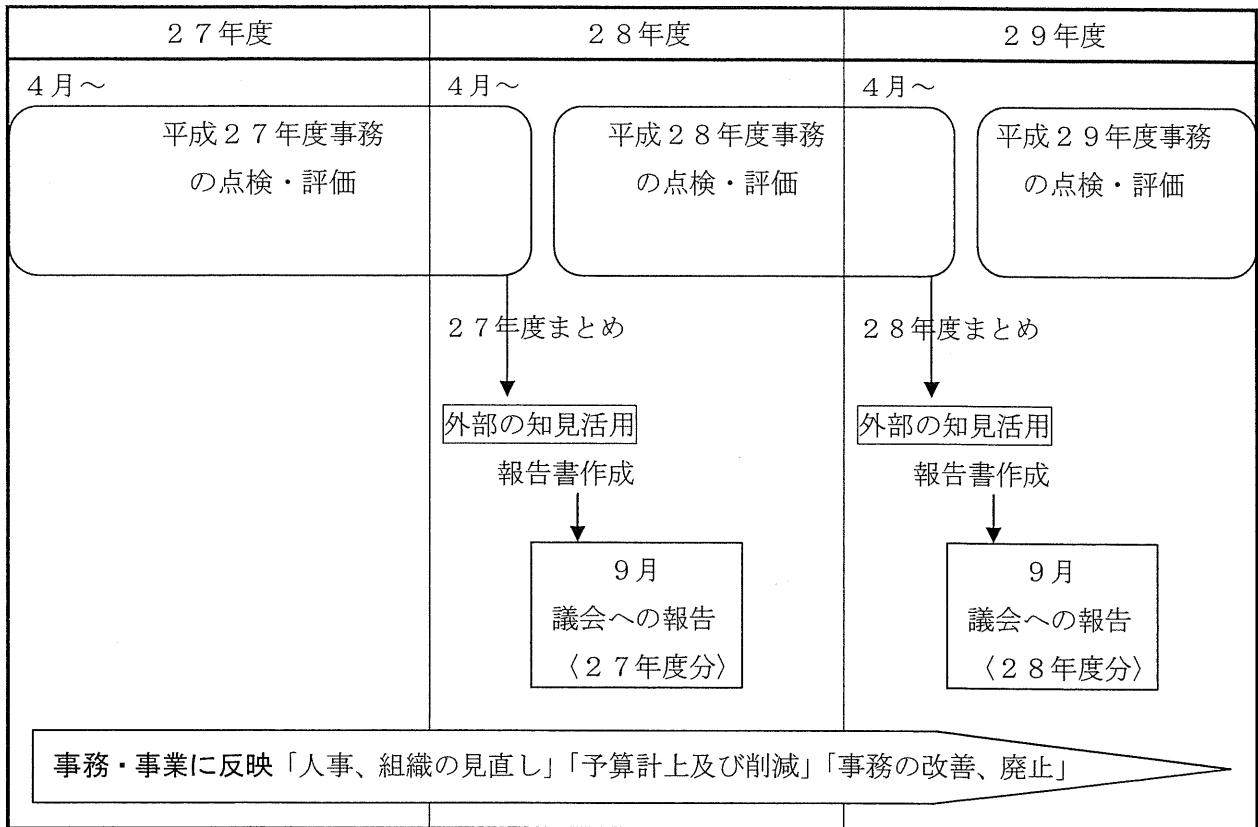
◇ 評価調書を教育政策課にて取りまとめたのち、教育委員会が二次評価します。

※ 教育委員会の職務として、教育委員会で審議します。

#### ■いつ評価するのか？

◇ 当該年度の翌年に、評価を実施することになります。

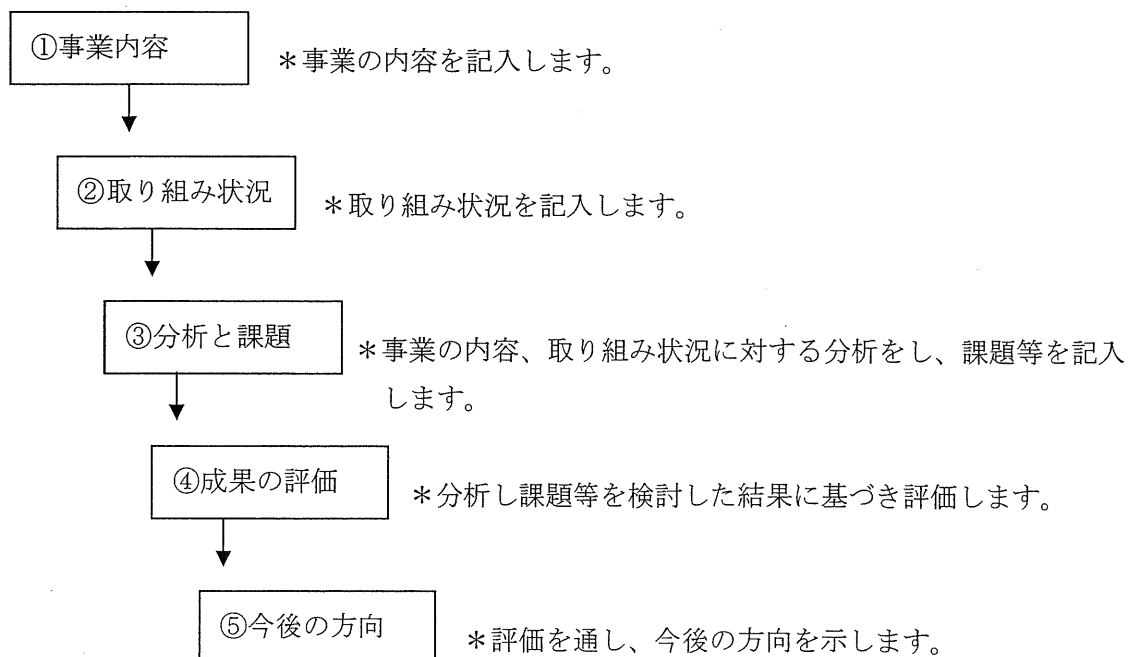
◇ 評価のスケジュール等については、次頁のとおりになります。



### ■自己点検・評価の方法

◇ 設定した評価項目について、次のように評価します。

評価項目を設定したら、評価調書を作成します。評価の流れは、次のとおりです。



評価の方法は次のとおりです。

#### 1. 事業の概要と取り組み状況

- ・ 予算の事業の概要を記入します。予算の事業概要の欄に記入のない場合も記載します。
- ・ 取り組み状況は、具体的に実施年月、参加者数、購入量等を記載します。

#### 2. 成果分析と評価

- ・ 前年度の評価において今後すぐに取り組む事項とした内容を記載のうえ、具体的な取り組みにつながった点と内容を記載します。

また、具体的な取り組みにつながらなかった場合もその内容を記載します。

総合評価は、以下の点等を考慮します。

- ・ 他自治体との比較 \*先進的な取り組みか又は他市に遅れているかなど
- ・ 社会の動向や市民の要求に対する分析 \*指標やアンケートなど
- ・ 情報公開、説明責任、環境に対する配慮など

#### 3. 成果の評価

- ・ 分析した結果を有効性、効果性、効率性、について自己評価します。

		判定の基準		
		A 前進	B 維持	C 後退
有効性		・ 計画通り目標が達成できたもの	維持	・ 目標を下回る結果に終わったもの ・ 目標が達成できなかったもの又は目標達成に目途が立たないもの
効果性		効果（予定通り進捗）があった	維持	効果がなかった
効率性	コスト	効率が良かった	維持	効率が悪かった
	人員	効率が良かった	維持	効率が悪かった

※「B 維持」判定は、どちらとも判断できないもの又は判定不能も含む。

#### 4. 今後の方向

- ・ ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止 の6項目で示します。
- ・ 項目の内容を、「すぐに取り組む事項」と「中長期的な検討課題」として具体的に記入します。

平成28年度敦賀市教育委員会自己点検・評価調書（個票）

所属名		担当者職氏名		
予算の区分	(項)	(目)		
大 事 業		予 算 額	千円	・主要
中 事 業		前年度予算額	千円	・新規 ・継続
小 事 業		決 算 額	千円	・政策 ・経常
事業の区分（法令の根拠）	I	II	III	教育委員会活動
第6次総合計画	名称・方向性			
後期基本計画	実施計画			
担 当 課		関 連 課		

事務事業の概要 と取り組み状況	(事務事業の概要)
	(具体的な取り組み状況…実施年月、参加者数、購入量など)

成果の分析 と評価	(昨年度評価票の「今後の方向」で「すぐに取り組む事項」とした内容)	
	(具体的な取り組みにつながった点とその内容)	
	(具体的な取り組みにつながらなかった点とその内容)	
	(総合評価)	
	有効性	A・B・C
効果性	A・B・C	
効率性（コスト）	A・B・C	
効率性（人員）	A・B・C	

今後の方向	①継続	②完了	③拡大	④縮小	⑤転換	⑥中止
	すぐに取り組む事項（次年度から）					
	中長期的な検討課題（3～5年の期間）					

■外部評価は誰がするのか？

◇ 自己点検・評価に対する外部の知見の活用について、外部組織から委員を選任します。

- (1) 外部評価の組織の決定
- (2) 評価者の選任
- (3) 評価会議の設置・開催
- (4) 評価会議の意見書のまとめ

■報告書の作成

◇ 評価調書をまとめ外部の知見を盛り込み報告書を作成します。

■議会への報告書の提出と公表

- (1) 報告書の提出

報告書は、毎年9月議会に提出します。

- (2) 報告書の公表

報告書は、ホームページにおいても公表いたします。

■評価結果を活かすには

◇ 評価結果を事務に反映します。

- (1) 人事、組織を見直します。
- (2) 予算の計上又は削減をします。
- (3) 事務の改善、廃止をします。

◇分類表

大項目	中項目	小項目	担当課	
I 教育委員会が管理・ 執行する事務	1	教育行政の運営に関する一般方針を定めること。	(1)教育振興基本計画の策定 (2)教育要覧の作成	教育政策課
	2	教育委員会の所管に属する学校、公民館その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。	(1)学校の統廃合 (2)学校の適正配置 (3)公民館の設置 (4)教育機関の設置及び廃止	教育政策課 生涯学習課
	3	県費負担教職員の懲戒、任免その他の進退について内申に関すること。		教育政策課
	4	県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。		教育政策課
	5	教育長並びに教育委員会事務局及び教育機関の課長補佐以上の職員の任免に関すること。		教育政策課
	6	人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。		教育政策課
	7	重要な教育機関の財産の取得について、市長に申出を行うこと。		全課
	8	教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと。		教育政策課
	9	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見の申出を行うこと。		全課
	10	法令、条例等に基づく各種専門委員の任命、委嘱等に関すること。		全課
	11	校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。		教育政策課
	12	児童及び生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。	(1)通学区域審議会	教育政策課
	13	教科用図書の採択に関すること。		教育政策課
	14	文化財の指定及び解除に関すること。	(1)文化財の指定 (2)文化財の指定解除	文化振興課
	15	請願、陳情、訴訟及び異議申立てに関すること。		教育政策課
	16	教育に関する表彰に関すること。	(1)教育功勞	教育政策課
	17	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。		教育政策課
II 教育委員会が管理・ 執行する事務を教育 長に委任する事務	1	教育財産の管理に関すること。		全課
	2	学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。		教育政策課
	3	学校の教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。		教育政策課
	4	教科書その他の教材の取扱いに関すること。		教育政策課
	5	校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。		教育政策課
	6	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。		教育政策課
	7	学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。		全課
	8	学校給食に関すること。		教育政策課
	9	青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。		生涯学習課
	10	スポーツに関すること。		スポーツ振興課
	11	文化財の保護に関すること。		文化振興課
	12	ユネスコ活動に関すること		教育政策課
	13	教育に関する法人に関すること		教育政策課
	14	教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。		教育政策課
	15	所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。		全課

	16	前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること		全課
Ⅲ 上記に分類されないものとして、教育委員会自身の活動	1	教育委員会の会議	(1)教育委員会会議の開催	教育政策課
	2	教育委員の研修		教育政策課